

車体

NEWS

AUTUMN 2019 秋

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



CONTENTS

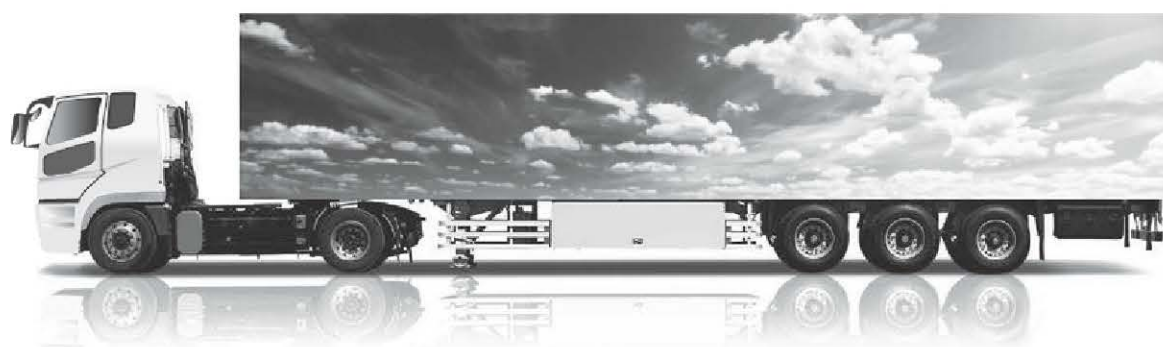
巻頭言	2
NEWS特集	
講演会「最近の自動車技術行政について」	3
NEWS FLASH	
本部だより	7
部会だより	9
支部だより	11
官公庁だより	12
月度活動状況	15
会員情報	18
Net Work	
vol.96 株式会社シスコム	19
VOICE STAGE 85	
新和ゴム工業(株)	21
株式会社ゆう	22

そこが知りたい	
第42回「CASE、MaaS」って何?	23
働くクルマたち	
第26回「活魚運搬車」	25
Coffee Break	27
我が社の元気人	29
DATA FLASH	
2019年1月～6月会員生産状況概要	30
編集後記	33



URL: www.jabia.or.jp/ E-mail: info@jabia.or.jp

必要なモノ。 新しいモノ。



トレクスは
新たなモノを生み出す
企業でありたい。

技術の蓄積をエネルギーに変え、新たな技術開発にチャレンジしています。
世界の中に必要なモノはなにか、日本トレクスは時代にあったニーズの創造に努めて参ります。



スワップボデー



フラットパネルバンセミトレーラ



25mフルトレーラ

●仕様は改良のため予告なしに変更する場合があります。●製品の色は印刷インクの特性上実物と多少異なります。

TREX 日本トレクス株式会社

本 社

〒441-0193 愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地
TEL 050-3367-7448 FAX 0533-78-3628

日本トレクスホームページ
<http://www.trex.co.jp/>



巻頭言

副会長就任にあたり

副会長 永田 雅久

トヨタ自動車東日本(株) 専務取締役



皆様こんにちは。本年度より副会長、並びに環境委員会と広報委員会の委員長を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。実は私が車体工業会のお仕事をさせていただくのはこれが初めてであり、就任にあたり車体工業会について少しですが、勉強をしました。この機会を通して改めてその活動と、短期間ではありますが私が感じたことを紹介させていただきます。

ご存知の通り当会はバン・トラックの荷台架装、特装車、バス、トレーラなど「動くクルマ」を製造している車体メーカーの業界団体で、195社もの会員で構成されています。会員各社はお客様のニーズに合わせて様々な動くクルマを全国各地で生産しており、物流用途はもちろん、作業用車両として活躍しています。昨年度の国内商用車登録台数は450千台、内大中型貨物車は91千台と本当に多くの動くクルマが活躍をしています。この台数を見ると、会員の皆様の商品が私たちの生活とは切り離すことができない重要な役割を担っていることが良く分かります。これは常にお客様のニーズにお応えし、環境変化に真正面から取り組まれ日々努力を積み重ねられた成果であり、本当にすごいことだと思います。一方、本年度の商用車需要は、緩やかな景気回復基調のもと代替需要が見込まれるものの、長期的には社会環境変化に伴う国内輸送量の減少が想定されており、更なる努力が必要であることは言うまでもありません。

しかしながら取り巻くすべての環境はめまぐるしく動いており企業体質の強化が必要です。お客様ニーズは今まで以上に高度化、多様化してきており、対応へのスピードも要求されています。低価格、低燃費、高品質、高積載量、環境対応などのニーズは勿論ですが、中でも安全への関心は一層高くなっています。ドライバー、作業者の高齢化も進んでおり、先進技術(IoT、AI等)を活用した、運転し易い、扱い易い商品への期待が大きく高まっています。同時に企業経営におけるCSR対応、リスクマネジメント体制整備も大きな課題であり責務です。

これらの取り巻く課題に立ち向かうために当会は様々な取組みを推進しています。安全対応では、会員各社からご意見をいただきながら架装車に最適な車両法規改正を提案し、車体に関する規格化、基準化を推進しています。

また、使用過程車の安全確保策と保守点検の啓発活動、技術的調査研究と開発、部品共通化を推進し、技術レベルアップを支援しています。環境対応では架装物リサイクルに関する自主取組みを進め、環境負荷物質フリー宣言100%を支援し、生産活動に伴う環境対応技術への支援をしています。中小の会員様には、各部会活動と連携した要望事項、困りごとに対し有用な情報の調査と展開をし、リスクマネジメント、コンプライアンス、安全衛生活動への支援を行っています。加えて車体業界の認知度向上にも取り組む等、本当に幅広い活動を実施し、お客様、社会、そして会員様のために取り組んでいます。

まだ数回ですが私も理事会、委員会に出席させていただきました。委員会の中では、各案件が本当にお客様のためになるのか?会員企業様のためになるのか?と真摯な議論をしています。ありがたいことに、案件毎に担当委員の皆様が事前に集まり、しっかりと議論ができるように準備をされています。本当にお忙しい中ありがとうございます。また当会活動がスムーズに運営できるのは、事務局の皆様が多岐にわたる全ての活動に日々取り組んでいただいているお陰であることは言うまでもなく、本当に感謝しております。

これからの環境変化は非常に複雑で厳しいものと考えられます。これまで以上にお互いの立場を尊重し、信頼される活動を推進することが大切になってきます。皆様と力を合わせてお客様、会員各社の皆様のお役に立てる活動を推進していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2019年7月18日、コンベンションホールAP浜松町において、国土交通省 自動車局 審査・リコール課から久保田秀暢課長をお招きし、「最近の自動車技術行政について」をテーマにご講演をいただいた。

講演内容は、車両安全対策の枠組み、道路運送車両法の一部改正、OBD検査の概要、自動運転への取組み、高齢運転者への安全対策等多岐に渡るものであったが、事例を交えて分かり易くご説明いただいた。

当日参加した約120名の会員にとって、自動車技術行政の最新情報や官民で取り組むべき課題について理解を深める機会となり、大変有意義な講演会であった。



国土交通省
自動車局 審査・リコール課
久保田 秀暢 氏

1. 車両安全対策の枠組み環境

(1) 車両安全対策の枠組み

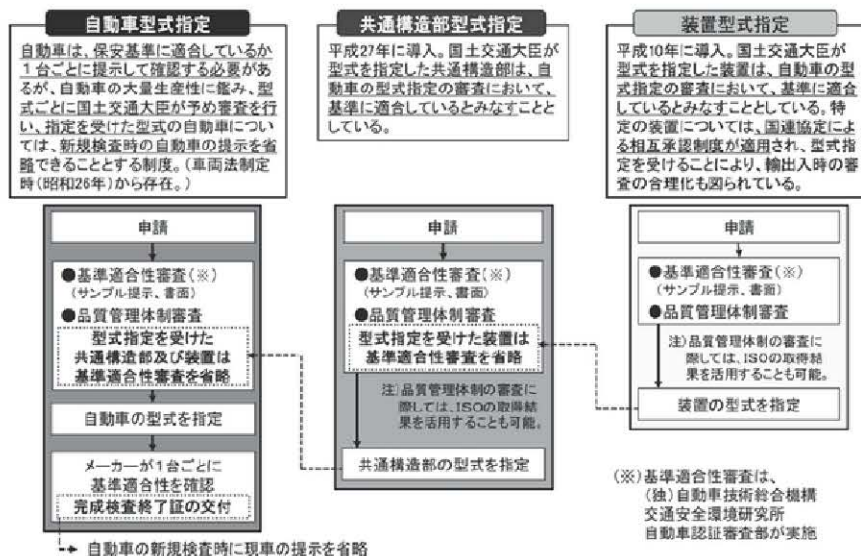
技術開発から、新車対策、使用過程車対策まで一貫した車両安全対策を推進している。

技術開発		新車対策		使用過程車の対策		
先進安全自動車 (ASV)	安全基準	型式認証	自動車アセスメント	点検・整備	検査	リコール
先進安全技術の開発、普及促進	安全基準の拡充・強化 国際基準調和の推進	製造時の適合性確認	自動車の安全性評価 ユーザーへの情報提供	使用時の安全性の確保	使用過程車の安全性の確保	設計・製造に起因する欠陥車両の市場回収

(2) 自動車の認証制度について

認証制度には、「自動車型式指定」、「共通構造部型式指定」及び「装置型式指定」の3種類がある。これらの制度により製造された自動車は、新規検査の一部又は全部が省略されるので、自動車メーカーにとってもコスト低減に繋げることが可能。

なお、現在は通達による「新型自動車届出」制度が存在するが、2021年3月末までに、「共通構造部(多仕様自動車)型式指定」に移行することが決まっている。



2. 道路運送車両法の一部改正

(1) 自動運転の実現に向けた政府の取組み

- ①自動運転の実現により、交通事故の大幅な削減、高齢者等の移動支援、トラック運転者不足対策等に資する技術として期待。
- ②政府目標は、2020年までに、レベル3(高速道路における自家用車の自動運転)及びレベル4(限定地域での無人自動運転)の実現。

(2) 道路運送車両法の一部改正概要

- ①自動運転システムのレベル3・4の安全性を確保するため、保安基準の対象装置に「自動運行装置」を追加。

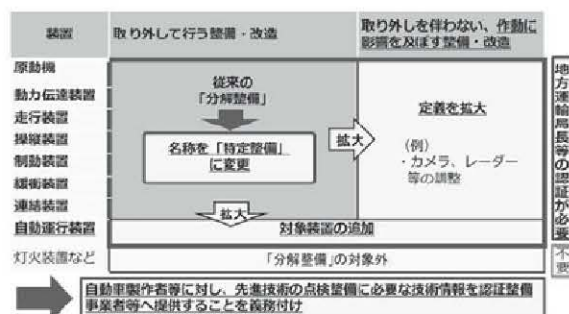


②自動車の電子的な検査(OBD検査)に必要な技術情報(故障コード)の管理事務を(独)自動車技術総合機構に行わせ、この情報を全国の検査実施機関(当該機構、軽自動車検査協会、民間車検場)が活用できる環境を整備する。



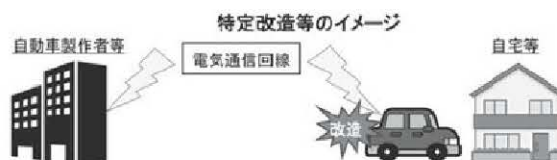
③分解整備の範囲拡大及び点検整備に必要な技術情報の提供

事業として行う整備の範囲に「自動運行装置」を追加し、名称を「分解整備」から「特定整備」に改めた。また、自動車メーカーに対し、点検整備に必要な型式固有の技術情報について、特定整備を行う事業者等へ提供することを義務付けた。



④自動運行装置等に組み込まれたプログラムの改変による改造等に係る許可制度の創設

自動車製作者等において、使用過程時の自動車の電子制御装置に組み込まれたプログラムの改変等を適切に行われる環境を整備する必要性が生じたため、あらかじめ国土交通大臣の許可を受けなければならないこととし、当該許可に関する技術的な審査を(独)自動車技術総合機構に行わせることとした。



⑤型式指定制度における適切な完成検査の確保

2017年秋以降、自動車メーカー等による完成検査の不適切な取扱いが相次いで発覚したため、強制力のある機動的な措置の導入並びに罰則の強化を図った。

⑥自動車検査証の電子化

自動車検査証のICカード化、ICチップ記録等事務の委託制度を創設することとした。

3. 車載式故障診断装置を活用した自動車検査(OBD検査)

自動ブレーキや自動運転装置等並びに排ガス関係装置の故障の有無は、外観や測定機で発見することは困難なため、2024年からの自動車検査(2021年以降の新型の乗用車、バス、トラックに限る。)において、自動車に記録された故障コードを読み取る手法を導入する。

車載式故障診断装置(OBD)を活用した自動車検査手法



4. 自動運転に関する取組み

(1) 自動運転の実現に向けた今後の国土交通省の取組み

- ① 国際的な協力の下で自動運転の早期実用化に向けた取組みを主導・推進、安全基準の策定、整備・検査の高度化に取り組む。
- ② 損害賠償責任、運送事業への導入、3次元地理空間情報基盤の整備等の自動運転の実現に向けた環境整備に取り組む。



(2) ラストマイル自動運転

最寄駅等と最終目的地をラストマイル自動運転で結ぶ「無人自動運転による移動サービス」について、2020年

の実現を目指して、経済産業省と連携し、石川県、沖縄県、福井県、茨城県で実証実験中。

①【市街地モデル】 石川県輪島市
(小型カート利用) 2017.12～



②【過疎地モデル】 福井県永平寺町
(小型カート利用)
1人:1台遠隔監視・操作 2018.4～
1人:2台遠隔監視・操作 2018.11～



③【観光地モデル】 沖縄県北谷町
(小型カート利用) 2018.2～



④【コミュニティバス】 茨城県日立市
(小型バス利用) 2018.10～



(3) トラックの隊列走行

トラックドライバー不足の解決策として期待されている隊列走行(先頭車両のみ有人で後続車両は無人走行)について、2020年度に実現を目標に、まずは有人による実証実験を新東名と北関東道で実施中。

※2019年1月に実施している公道実証の主な走行条件について



5. 高齢運転者の安全対策

(1) 安全運転サポート車(サポカーS)の普及啓発等

高齢運転者による死亡事故対策として、乗用車の新車販売において衝突被害軽減ブレーキの搭載比率を2020年までに9割以上にすること、並びにペダル踏み間違い時加速制御等の普及に取り組む。

＜目標＞ 2020年までに衝突被害軽減ブレーキの新車乗用車搭載率を9割以上とする



衝突被害軽減ブレーキの性能認定試験(イメージ)

(2) 乗用車等の衝突被害軽減ブレーキ(AEBS)の国際基準

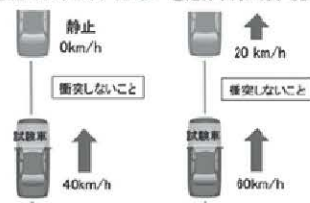
日本がリードして進めた乗用車等へのAEBSの義務化

NEWS特集 講演会

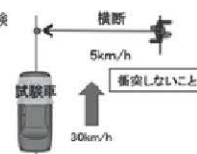
が国連のWP29で6月に承認された。これを受け、2020年1月に保安基準が改正される予定。

【主な試験方法】

① 静止車両に対する試験 ② 走行車両に対する試験



③ 歩行者に対する試験



6. 最近の自動車環境対策

(1) 燃費基準の強化

① 重量車の燃費基準

新たな燃費基準

◆ 目標年度：2025年度

◆ 対象範囲：ディーゼル車（ハイブリッド車含む）

◆ 燃費基準値：

	目標基準値※	現行の2015年度基準との比較
トラック	7.63 km/L	約13.4%の基準強化
バス	6.62 km/L	約14.3%の基準強化

※ 2014年度販売実績を基に加重調和平均して算出した値

◆ 電気自動車等の取扱い：

- ・電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池自動車は、現時点では、普及台数が少ないため、燃費規制の対象外とする。
- ・一方で、電気自動車等の更なる普及促進を図るため、自動車メーカーの電気自動車等に対する取組を評価する仕組みを導入する。（詳細は今後、更に燃費合同会議で検討。）

② 次期乗用車燃費基準

燃費基準案

◆ 目標年度：2030年度

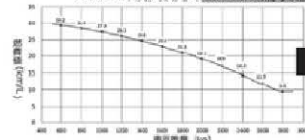
◆ 対象範囲：ガソリン車、ディーゼル車、LPG車、電気自動車、プラグインハイブリッド車

※ 下線は新たに規制の対象とする車両

- ◆ 電動車の取扱い：電気自動車・プラグインハイブリッド車の評価は、発電時のCO₂や発電所から車両に送電・充電ロスを含めたWell-to-Wheelの概念を導入する。
- ◆ 今後のスケジュール：2019年度中に、関係法令の改正を行う。

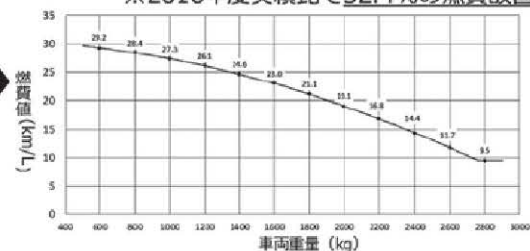
◆ 次期燃費基準案：平均 25.4 km/L

※ 2016年度実績比で32.4%の燃費改善



◆ 次期燃費基準案：平均 25.4 km/L

※ 2016年度実績比で32.4%の燃費改善



7. 完成検査の不適切事案

(1) 不適切事案の概要

- ① 無資格検査
- ② 測定値書き換え
- ③ 燃費・排出ガス検査におけるトレースエラー

(2) 不適切事案の主な原因

- ① 本社等
完成検査の重要性に対する意識が低く、現場任せの実態
- ② 現場
コンプライアンス意識不足、閉鎖的な組織、上位組織・営業からのコスト・生産性に関する達成困難な要求等

(3) 道路運送車両法等の改正

- ① 完成検査の実施状況の記録及び保存に関する基準を定めた
- ② 虚偽の記録防止又は虚偽の記録が作成された場合に判別できる措置の義務付け
- ③ 完成検査員の選任並びに教育訓練に関する規定を定めた
- ④ 勧告制度の導入
- ⑤ 是正命令の導入
- ⑥ 新たな完成検査の実施方法の促進
- ⑦ その他

8. タカタ製エアバッグ問題への対応

タカタ製エアバッグの異常破裂問題については、2009年から（米国では2008年）からリコールによる措置を実施してきたが、未改修車が依然95万台（2019年5月末）存在。改修率が100%に達するまで続ける。

9. 「ホワイト物流」推進運動

(1) 概要

深刻なトラック運転者不足に対応するため、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化及び女性や60代以上の運転者も働きやすい「よりホワイト」な労働環境の実現に取り組む。

(2) 企業に呼び掛ける事項

- ① 物流の改善

- ② 法令遵守への配慮
- ③ 契約内容の明確化・遵守
- ④ 運送内容の見直し
- ⑤ 運送契約方法の改善
- ⑥ 運送契約の相手方の選定
- ⑦ 安全の確保

本研修では、生産現場で人材育成を担うリーダー層を中心に作業習熟向上のための教育・指導の際、基本動作の大切さを理解して貰うための教え方や、作業指導のための道具等の紹介及び実作業を体験し、教わる立場に立った教育の仕方について研修した。具体的には、塗装職種でのシーラー充填や吹付、組立職種でのボルト締付、ボデー職種でのアーク溶接などを体験した。

さらに、生産活動の基本である安全な職場づくりを進めるため、安全体感教育として労働災害に関する原因を確認し、ルールに基づき作業が行われていない場合にどのような災害が発生するのかを体感し、危険の大きさを実感した。

具体的には、玉掛作業時の手指挟まれや接触、フォークリフト運転中の死角や荷崩れ、電流値の変化による感電、ラッカーシンナー気化時の爆発現象など、各々の作業における保護具の重要性や危険性を自らの身体で体感した。

またトヨタ自動車東日本(株)で取り組んでいる、やりにくい作業や困り事を解決する「からくり改善」について、現場の組長の取り組みへの想いと実施事例の説明を受けた。

参加者からは、体験・体感することで単に机上での説明を受けるのとは異なり、それぞれの研修内容の理解を深めることができ、自社への展開を図りたい、との声が多く聞かれた。



シーラー充填体験



アーク溶接体験

■安全衛生活動WGメンバーによる工場現地現物確認会実施

安全衛生活動WGは、会員への労働災害事例の提供及び会員の工場を現地現物確認し会員とWGメンバーの労働安全の向上を目的に活動している。8月21日、メンバー会社である(株)ケイエムオー(群馬県伊勢崎市)を安全衛生の視点で現地現物確認を実施した。

会社概要の説明後、安全の取組みの紹介があり、社長を含めた全員参加(20人程度)の朝礼を活用し、作業内容、安全への対応や、特に現在は夏場であり熱中症対策として

従業員の体調の確認などを行い、安全意識の高揚、安全行動に繋げている。

その後、検診車などの製造現場を見学したが、一人の従業員が多種な作業をこなすことで、作業内容に合わせた保護具の確実な着用のためには、危険を体感させたり、会社トップの安全への姿勢を継続的に示すことが大事ではないか、などの活発な意見交換を行った。

作業現場を現地現物で確認し相互の気づきもあり大変有意義な確認会であった。



現地現物確認風景

■労政合同分科会を実施

人事労務研究会では、7月26日に、当会会議室において、第42回労政合同分科会(車工会、部工会合同)を開催し、本年度各種調査項目の共有、情報交換を行った。

「2019年春季労使交渉調査」の結果は、概ね要求通りの回答となったが、一部業績悪化の影響で、上期賞与の回答が下回った会社もあった。

「2019年採用実績・採用計画調査」では、新規採用者の取りやめ等もあり、希望人数に対して大変厳しい状況であることを受け、通年採用(中途)や、高齢者の継続雇用で対応している等の報告があった。

「2019年労働時間調査」では、働き方改革関連法の施行に伴い、時間外労働の上限規制に対する法令遵守の徹底、年5日の年次有給休暇の取得に対しては、管理者の対応に一部課題が残るとの報告があった。

参加者から活発な質疑応答がなされた大変有意義な分科会となった。



特種部会

■工場見学会を実施

特種部会(部会長・青地潔・㈱オートワークス京都社長)では、若手を対象とした見学会として8月1日、部会員19社35名が参加し、山田車体工業㈱本社工場(静岡県沼津市)と㈱浜名ワークス本社工場(静岡県浜松市)の見学を実施した。

山田車体工業㈱本社工場は、1946年に操業を開始したフラップ車、カーゴ車などのトラックボデーの生産工場で、5Sの行き届いた大変きれいな工場は参加者が皆、見習うべきとの声が多く聞かれた。部品の内製率が非常に高く(95%以上)、納期遵守のための内製部品の製造



山田車体工業㈱

進捗を含めた全工程の進捗管理を、タブレットを使った可視化とデイリーミーティングを活用した独自の取組みは、大変勉強になった。

㈱浜名ワークス本社工場は、1948年に自動車車体の製造を開始し、清潔で整頓された広い作業場で車両運搬車、カーゴ車、ウイングバンなどを生産する工場となっている。工場の生産進捗及び技術部における設計進捗のモニター映像による可視化は、参加者の関心が高く、大変参考になった。また、改善提案の成果に対するインセンティブ制度、メンタルヘルスマネージメントなど、社員のモチベーション向上に繋がる諸活動を会社側で積極的に推進している姿に参加者一同、感銘を受けた。

今回の見学会は貴重な体験で、今後、特種部会会員の活動でも参考にすべき内容であった。



㈱浜名ワークス組立工程

トラック部会

■車両運搬車分科会工場見学会を実施

車両運搬車分科会(分科会長・細谷貞治・細谷車体工業㈱社長)では、6月20日、7社9名が参加し、㈱浜名ワークス(静岡県浜松市)の工場見学を実施。設計室から完成車(主に車両運搬車)までの全ての工程を見学した。



車軸加工工程

㈱浜名ワークスは5Sの徹底を掲げており、工場のレイアウトも整理整頓はもちろん無駄のない作業工程となっている。2018年度の改善効率化の目標達成率は168%と社員の意識の高さは見学者全員勉強になった。

働き方改革を進めるための取組みも積極的に行い、地域性もあるが日系ブラジル人や女性の就業定着率も伸びている。参加者からは、非常に参考になったとの声が聞かれ、有意義な見学会となった。



完成・電気工程

バン部会

■技術委員会工場見学会を実施

技術委員会(委員長・井澤雅史・日本トレックス㈱設計部長)では、7月12日、9社9名が参加し、㈱北村製作所(新潟県新潟市)の工場見学を実施した。

会社説明概要を受けた後、4つの事業の柱、①車両事業②通信事業③産業機械事業④特装車両事業の全てを見学。「視点を変えれば新しい姿が見えてくる」というこだわりから、通信



事務棟2階にある設計部

事業への業務拡大を行い、それに伴い建設業許可の取得、そして一級建築士の資格を持つ社員が育っているということには驚かされた。バン型車を製造する技術を活かし将来を見据えた企業努力は大変参考になった。

小型部会

■学生フォーミュラ日本大会2019視察

技術委員会(委員長・中島俊幸・トヨタ自動車東日本(株)第3ボデー設計部部長)は、8月30日、静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で行われた自動車技術会主催の学生フォーミュラ日本大会2019を視察した。

当日は、大会参加経験者のOBによる大会ルールの紹介を受けたあと、エンデュランス(約20kmを走行し、走行性能、耐久性、燃費を競う)や小型部会会員各社の企業紹介



大会参加経験OBによるルール説明

ブースを視察した。フォーミュラ規約に基づき約100大学の



走行風景

のコンセプト・企画・設計・製作と一連の活動から生まれたフォーミュラカーの個性ある走りを見て、“ものづくり”のむずかしさや楽しさを感じた。また企業の紹介ブースに

は、車好きの学生が多数集っており、またフォーミュラに参加する学生の多くが自動車関連メーカーに就職することを聞き、リクルートとしての期待が持てた。



日産車体(株) 企業紹介ブース



トヨタ自動車東日本(株) 企業紹介ブース

資材部会

■第1分科会見学会を実施

第1分科会(分科会長・久保航一(株)昭和会長)は、7月19日に16社18名が参加し、「防災」をテーマに、気象庁の気象科学館(東京都千代田区)、東京消防庁の本所防災館(東京都墨田区)を見学した。

気象庁内1階にある気象科学館では、気象や地震の観測機器をはじめ、天気予報のしくみ、緊急地震速報、津波、火山、地



気象科学館

球温暖化問題、自然災害に対する防災知識などに関するパネルや装置が置かれており、参加者が各自、自由に体験を行うことができた。

本所防災館では、音響システム、座席の振動等、インパクトのある演出を用いた「防災シアター」で3.11の災害の映像を視



本所防災館

聴した。煙体験コーナーでは、煙の特性や危険性を知ったうえで、煙と空気の境目である中性帯の中を避難し、冷静な判断力と確実な行動力を養い正しい避難の方法を身につける体験を行った。地震体験コーナーでは、3.11の東日本大震災や、阪神・淡路大震災相当の地震を体験し、身を守ることの大切さを学んだ。

参加者から、改めて防災訓練の必要性を再確認した貴重な体験だったという声が多数あり、有意義な見学会となった。

■海外(中国・ベトナム)視察を実施

資材部会(部会長・小澤賢記・ゴールドキング(株)社長)は、8月20日～24日の日程で9社10名が参加し中国・ベトナム自動車関連施設視察を実施した。

中国では、深センのBYD社を訪問。社名は「Build Your Dream」(夢を実現しろ)の頭文字をとっている。同社は1995年の創業時からリチウムイオン電池の製造を手掛け、携帯電話の普及に伴い急成長した。その後2003年に自動車業界へ参入、2005年にはプラグインハイブリッド車を世に送り出し、世界有数の企業へと成長した。同社の

電気バスは世界で50万台、日本へは50台が輸出されている。現在は、自動車、商用車、スカイレー



ル、蓄電池、電気機器の5事業を展開している。自動車事業ではガラスとタイヤ以外の部品は内製で、試験設備も充実しており、バス・トラック等大型車専用のEMC*試験室も所持している。

EVバスやスカイレールの試乗、バス試作工場や展示ルームの見学をし、見学後は自動車部門の田COOを交え、ディスカッションを行った。その中で田COOから、今後の事業展開として、さらなる輸出拡大を考えており、日本もその中の一つである、とのコメントがあった。

創業からわずか25年で、従業員20万人という巨大企業へ成長した同社では、多くの若い従業員が自信に満ち、情熱を持って、業務に取り組んでいる姿に、参加者一同、大変感動した視察となった。

ベトナムでは、クアンナム省のTHACO社の自動車工場施設を訪問した。

THACO社は1997年に設立。同社は自動車以外にも商業や農業、建設など様々な事業を展開している。

自動車関連ではマツダ、KIA、プジョー等の乗用車や、自社ブランドのトラック、バス、トレーラー等の商用車を生産し、ベトナムにおけるシェアは国内トップであり、内製化率はバスで60%、トラックで35~45%、乗用車で17%とのこと。当日は、トラック工場、バス工場、乗用車工場を電動カートを利用して見学。見学の後のディスカッションの中で、従業員はほとんど現地採用で、社員教育プログラムも自社開発し、自社で育てていく仕組みができ上がっており、人材育成が企業の成長に繋がっていることを学んだ。



今回は、なかなか見学することのできない中国、ベトナムの自動車関連施設 THACO社会議室でのディスカッション設を見学できたことに加えて、活発な情報交換も行えた大変有意義な視察であったという声を多数いただいた。

※EMC試験：電気・電子機器の製品化や海外展開へ向けた認証適合試験

支部だより

NEWS+FLASH

中部支部

■愛知県自動車会館展示会

中部支部(支部長・広瀬康宏・(株)東海特装車社長)は、事務局が入居する愛知県自動車会館にてPR展示を実施した。

愛知県自動車会館は、入居する自動車関連の18団体がロビーでのPRを実施しており、今年で3回目となる。

車体工業会中部支部は7月の担当として、車体工業会のパネル・車体NEWS・車体工業会HP紹介の展示を通じて、来館者への新規会員加入のためのPRを実施した。



車体工業会パネル展示



車体NEWS・パンフレット・HP紹介

近畿支部

■第10回製造部会を実施

近畿支部(支部長・須河進一・須河車体(株)社長)は、7月12日15社27名が参加し、キャタピラージャパン(同*)明石事業所(兵庫県明石市)で製造部会を実施した。

キャタピラージャパン(同*)明石事業所では、国産初の油圧ショベルY35をはじめ、部品・板金・組立における工程を見学した。特に、組立ラインは全長200Mもあり、多品種少生産に対応できるよう自動化設備や部品供給装置を合理的に連結していることに感銘を受けた。さらに販売後のフォロー体制では、オイルの劣化を短時間で分析し、その結果からメンテナンス時期をアドバイスするシステムが早くから整っていたことには驚いた。異業種の会社を見学する大切さを知り、大変有意義な見学会となった。(同：合同会社)

※同：合同会社で会社形態のひとつ。経営者と出資者が同一であり、出資者全員が有限責任社員となる。



道路運送車両法の一部改正等について

国土交通省

【改正概要】

- ①保安基準対象装置への自動運行装置の追加
- ②自動車の電子的な検査に必要な技術情報の管理に関する事務を行わせる法人の整理
- ③分解整備の範囲の拡大及び点検整備に必要な技術情報の提供の義務付け
- ④自動運行装置等に組み込まれたプログラムの改変による改造等に係る許可制度の創設等
- ⑤型式指定制度における適切な完成検査の確保
- ⑥自動車検査証の電子化

【公布・施行】

2019年5月24日

道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部について

国土交通省

【改正概要】

WP29(国連ECE自動車基準調和世界フォーラム)の第176回会合において、UN-R16(座席ベルトに関する協定規則)、UN-R17(座席及び頭部後傾抑止装置に係る協定規則)等の改訂が採択されたことに伴ない、関係省令、告示等について所要の改正を行った。

(1)装置型式指定規則(省令)

指定を受けたものとしてみなす特定装置の規則番号を協定規則の改訂に合わせ更新した。

(2)保安基準の細目告示(告示)

①燃料装置

- ・燃料タンク及び配管に関する技術的要件として採用している協定規則の規則番号を「UN-R34」→「UN-R34-02」に更新した。

②乗車装置

- ・乗車装置の構造に関する要件に引用している協定規則の規則番号を「UN-R17-08」→「UN-R17-09」に更新した。

③座席

- ・衝突等による衝撃を受けた場合における乗車人員

等から受ける荷重への耐久に係る座席の性能及び当該座席の乗車人員の頭部等の保護に係る性能要件として採用している協定規則の規則番号を「UN-R17-08」→「UN-R17-09」に更新した。

- ・2020年9月以降の新型車から適用する。

④座席ベルト等

- ・座席ベルトの構造、操作性能等の要件として採用している協定規則の規則番号を「UN-R16-07」→「UN-R17-08」に更新した。
- ・2020年9月以降の新型車から適用する。

⑤その他

(3)装置型式指定実施要領(依命通達)

- ①「座席」及び「座席及び頭部後傾抑止装置」の装置型式指定基準において直接引用している協定規則番号について、「協定規則第17号第9改訂版」に更新した。
- ②「座席ベルト」の装置型式指定基準において直接引用している協定規則番号について、「協定規則第16号第8改訂版」に更新した。
- ③特定装置の名称中、「出力装置」を「自動車駆動用出力装置」に改める。

【公布・施行】

2019年5月28日

自動車型式認証実施要領等の一部改正について

国土交通省

JIS法(工業標準法)で用いる用語中、「日本工業規格」が「日本産業規格」に改正されたことに伴ない、以下の通達について所用の整理を行った。

①自動車型式認証実施要領

②装置型式指定実施要領

③共通構造部型式指定実施要領

④共通構造部(多仕様自動車)型式指定実施要領

⑤共通構造部(協定規則第0号)型式指定実施要領

⑥輸入自動車特別取扱制度について

⑦道路運送車両の保安基準第56条第4項の規定による試験自動車の認定要領

【公布・施行】

公布：2019年6月25日

施行：2019年7月1日

2019年度(令和元年) 『見える』安全活動コンクール』の実施等について 厚生労働省

厚生労働省では本年8月1日から、労働災害防止に向けた事業場・企業(以下「事業場等」という。)の取組み事例を募集・公開し、国民からの投票等により優良事例を選ぶ2019年度(令和元年度)『見える』安全活動コンクール』を実施する。

この「コンクール」は、安全活動に熱心に取り組んでいる事業場等が国民や取引先に注目される運動「あんぜんプロジェクト」の一環として実施するもので、2011年度より実施しており、今年度で9回目を迎える。

本年度は「経済財政運営と改革の基本方針2019(令和元年6月21日閣議決定)」において、サービス業で増加している高齢者の労働災害を防止するための取組を推進することが盛り込まれたことから、高年齢労働者が安全で安心して働くことのできる職場環境の整備に関する先進的な取組み(高年齢労働者の特性等に配慮した労働災害防止の見える化)を新たに募集の対象に追加。

「見える」安全活動とは、危険、有害性について、通常は視覚的に捉えられないものを可視化すること、また、それを活用することによる効果的な取組みをいう。さらに、自社の安全活動を企業価値(安全ブランド)の向上に結びつけ、一層、労働災害防止に向けた機運を高めることも狙いとしている。

厚生労働省では、本コンクールの実施を通じて、引き続き「労働災害のない職場づくり」に向けて取り組んでいくのでご協力を願いたい。

募集期間：2019年8月1日(木)～2019年9月30日(月)

投票期間：2019年11月1日(金)～2019年12月31日(木)

結果発表：2020年2月下旬

<詳細は以下を参照>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05778.html



「職場における受動喫煙防止のための ガイドライン」の策定について 厚生労働省

「健康増進法の一部を改正する法律」が昨年7月25日に公布され、本年1月24日より順次施行されています。厚生労働省では、これらの施行を踏まえて、受動喫煙防止対策のより一層の推進を図るため「職場における受動喫煙防止のためのガイドライン」を策定した。

ガイドラインでは、職場における受動喫煙防止対策を効果的に進めるうえで、組織的に実施することが重要であり、

事業者は 衛生委員会、安全衛生委員会等の場を通じて、労働者の受動喫煙防止対策についての意識・意見を十分に把握し、事業場の実情を把握した上で、各々の事業場における適切な措置を決定すること等が望ましいこと、受動喫煙防止対策の組織的な進め方や、推進計画の策定等が示されている。

会員各社においても、本ガイドラインの趣旨を理解し、社員に対し周知徹底を図るとともに、受動喫煙の防止について、一層の推進をお願いする。

<詳細は以下を参照>

<https://jyudokitsuen.mhlw.go.jp/>



「働き方改革関連法解説パンフレット」を発行

日本商工会議所・東京工業会議所

日本商工会議所及び東京商工会議所は、中小企業への働き方改革関連法の周知及び中小企業の対応推進に向け、働き方改革関連法解説パンフレット「働き方改革BOOK」を発行した。

中小企業の経営者や人事・労務担当者向けに同法を分かりやすく解説したもの。日商・東商主催セミナーでの配布、全国の商工会議所窓口等で配布するほか、日商・東商HPからもダウンロードが可能。

<詳細は以下を参照>

<http://www.jabia.or.jp/news/news.php?id=960>

(日商) <https://www.jcci.or.jp/news/2019/0613140000.html>

(東商) <https://www.tokyo-cci.or.jp/page.jsp?id=1017822>



■国土交通省人事異動

(2019年7月9日)

自動車局 次長

江坂 行弘氏

(前職)自動車局 技術政策課 課長

※前任の島雅之氏は退官されました。



自動車局 審査・リコール課 課長

久保田 秀暢氏

(前職)(独)自動車技術総合機構 審議役

※前任の野津真生氏は同局の技術政策課の課長に就任されました。



■ 秋季会員大会のご案内

- ◆日 時：2019年10月24日(木) 12:30～13:30
 ◆場 所：東京ベイ有明ワシントンホテル 3階
 「アイリス」

東京都江東区有明3-7-11

TEL:03-5564-0111

- ゆりかもめ「有明駅」から徒歩3分
- りんかい線「国際展示場駅」から徒歩3分

◆当日のスケジュール

- ・12:30 開会・会長挨拶
- ・12:40 懇親会(立食)
- ・13:30 閉会・自由解散後、

第46回東京モーターショー2019見学
 (当日受付にて東京モーターショー
 入場券を配布いたします)

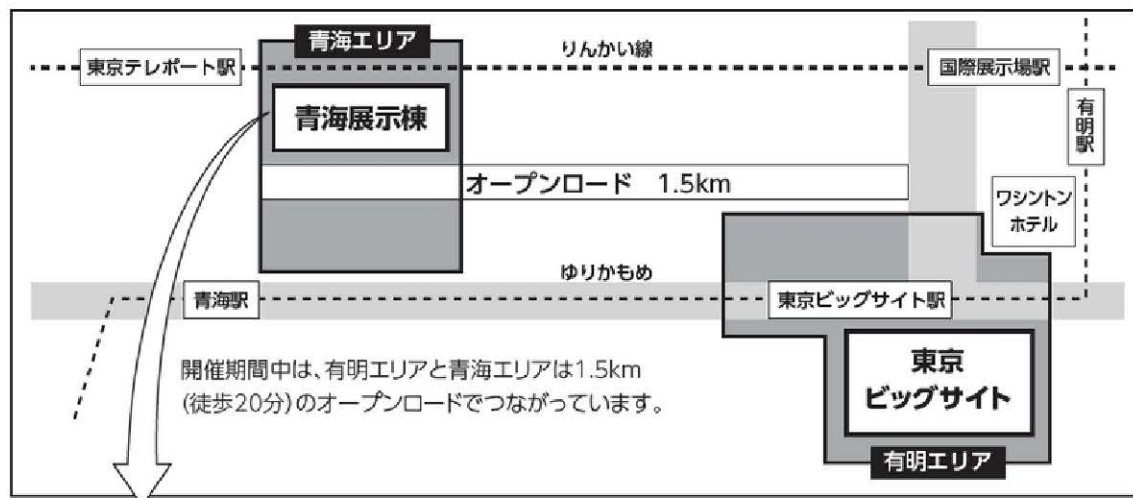
■ 第46回東京モーターショー2019



- ◆会 期：一般公開日 10月25日(金) 14:00 ～ 11月4日(月・祝日)
- ◆開催時間：月曜～土曜／10:00～20:00 日曜・祝日／10:00～18:00
- ◆会 場：東京ビッグサイト、青海展示棟
 車体工業会ブース展示

- ・パネル展示、映像等で当会及び会員会社のPRと「働くくるま」ものづくりPR
- ・会員製作の「働くくるま」ミニカー展示

東京モーターショー2019会場全体図



青海展示棟拡大図



東京モーターショー2019公式サイト
<https://www.tokyo-motorshow.com/>



6月		
6日	中央技術委員会／ISO26262WG	ISO26262商用車改定版を受け「ISO26262改訂を受けた架装物の対応」まとめ作成に向け、骨子&構成等の意見交換
7日	バン部会／技術委員会	①安全輸送ニュースNo.3の内容論議 ②取扱説明書手引き2019年度版の内容論議
11日	中央技術委員会／スワップボディコンテナの構造基準のJABIA規格化WG	①JABIA規格化に向けて解説文の見直しと修正内容の確認 ②互換性ステッカーのデザイン見直し
13日	環境委員会／架装物リサイクル分科会	①産業構造審議会報告資料内容の確認検討 ②環境基準適合ラベル広告デザインの確認検討 ▶P.7
14日	中央業務委員会／管理・監督者合同研修会	「基本的なリーダーシップとコミュニケーション能力向上」及び「研修を通じた同業他社とのネットワーク構築」を目的に外部講師を迎えて実施 ▶P.7
18日	環境委員会／工場環境分科会	①各種調査内容の確認 ②CO ₂ 排出量削減・産業廃棄物減量化支援計画の内容確認
	中央技術委員会／点検整備推進分科会	①2018年度「架装物年次点検済」ステッカー使用実績共有 ②架装物の安全点検制度普及に向けた活動の意見交換
19日	バン部会／業務委員会	①バン車営業社員教育の手引き上級編を作成検討アンケート調査を7月に実施し9月に内容確認 ②安全点検制度運用開始開始について説明、報告
	特装部会／塵芥車分科会	①特装技術委員会の情報共有 ②ISO-TC297第3回会合の結果共有と今後の対応決定
	特装部会／清掃車小委員会	①特装技術委員会の情報共有 ②ISO-TC297第3回会合の結果共有と今後の対応決定
20日	特装部会／技術委員会	①協定規則の最新情報共有 ②点検整備推進分科会の結果共有 ③ISO-TC297第3回会合の結果共有
	トラック部会／車両運搬車分科会(静岡)	①(株)浜名ワークスの工場見学会を実施 ②労働者人口減少に伴う人材確保、外国人労働者受け入れ体制について意見交換 ▶P.9
21日	特種部会／合同委員会	①9月見学会訪問先の論議・決定 ②本年度技術検討会の開催日を決定 ③車体NEWS秋号の「働くクルマたち」の内容を決定
	特装部会／ダンプ車分科会	①特装技術委員会の結果共有 ②ダンプ車の荷台降下防止装置について新安全基準での審査実施(4t車級)
24日	特装部会／業務委員会	①各分科会の事業進捗状況確認 ②生産台数の情報共有
	トレーラ部会／製品安全委員会	①自動車整備標準作業点数表への記載方法の確認検討 ②自動車点検分解整備記録簿の実効性調査アンケート進捗確認
25日	トラック部会／業務委員会	①労働基準監督署からの指摘事例集作成のためアンケート実施 ②部材仕入状況調査の品目の決定
	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.48「大型危険物タンクローリ編」を検討 ②点検整備推進分科会の結果共有
	資材部会／企画推進委員会	①2019年度事業計画上期進捗状況の確認 ②2020年以降の「技術交流会」の進め方を検討、会員宛アンケート実施を決定

26日	中央技術委員会／ 突入防止装置技術委員会	① UN-R58-03対応突入防止装置に関する認証取得者向け参考資料検討 ② UN-R58-03対応非認証突入防止装置に関する会員向け参考資料検討
	トレーラ部会／業務委員会	① 都道府県トラック協会研修会資料の内容確認 ② ラジオCM内容確認と今後の進め方
27日	バン部会／部会会議	① BSIバックカメラ/センサー後退警報装置の協定規則の情報共有 ② 7月22日の点検制度推進分科会に部会会員参加を確認
	特装部会／粉粒体運搬車分科会	① 特装技術委員会の結果共有 ② バックカメラの取付位置に関する検討実施
	バス部会／ ワンマン機器小委員会(石川)	既存設定のバックカメラの視認性実車評価
28日	特装部会／クレーン車分科会	① 特装技術委員会の結果共有 ② リヤオーバハングの取扱いについて情報共有
	中小会員ネットワーク強化WG	① 業務軸ネットワーク:EVバスプロジェクト進捗の共有 ② モチベーションネットワーク:9月のヒヤリング先を決定

7月		
1日	トレーラ部会／技術委員会	① 共通構造部型式指定制度移行時のトラクタマスター説明展開 ② R117対応時期の確認と今後の進め方
2日	特装部会／ローリ分科会	① 特装技術委員会の結果共有 ② JABIA規格P1103改訂検討
	商用車ショー企画委員会	当会小間展示の企画内容の確認
3日	第1回中央技術委員会	① 協定規則の最新情報共有 ② 点検整備推進分科会の結果共有 ③ ISO-TC297第3回会合の結果共有 ④ 基準化/標準化に向けた取組み進捗確認
4日	第1回環境委員会	① 各種調査項目内容の確認 ② 産業構造審議会報告項目確認
5日	第1回中央業務委員会	① 2020年度税制改正要望(案)を論議、合意 ② コンプライアンス規定制定に向けた今後の進め方を論議・決定
8日	特装部会／ダンプ分科会(業務)	① ダンプトレーラについて意見交換 ② 情報交換
9日	トラック部会／部会会議	① 2019年度工場見学日程を報告、日本フルハーフ(株)(11/1予定) ② 床材のアビトン材に代わる竹材の現状について意見交換
10日	バス部会／塗装デザイン研究会	今年度講師の関西ペイントとの調整を行いテーマ、日程等決定
	資材部会／フィルムグループ	「灯火器法規簡素化による国内採用について」説明会を実施
11日	中央技術委員会／ISO26262WG	ISO26262商用車改定版を受け「ISO26262改訂を受けた架装物の対応」まとめ作成に向け、骨子&構成等の意見交換

NEWS+FLASH

月度活動状況

7月		
12日	中央技術委員会／ テールゲートリフタ技術分科会	①中央技術委員会の結果共有 ②突入防止装置技術委員会の結果共有 ③みなしパンパの自主基準検討
	パン部会／技術委員会(新潟)	①(株)北村製作所工場見学を実施 ②WG各テーマを報告、確認 ▶P.9
18日	常任委員会	①リコール保険制度導入論議 ②VDA(ドイツ自工会)との連携の進め方論議 ③現地現物による技能系社員研修の進捗報告
18日	第252回理事会	報告事項 1) 2018年度事業計画 本部・部会・支部別1/4期実績まとめ 2) 2018年度1/4期 収支実績まとめ 3) ISO-TC297 第3回会合報告 4) 商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況 5) 税制改正に関する要望 6) 管理・監督者層対象合同研修実施報告 7) 東京モーターショー2019当会小間展示企画 8) 最近の商用車販売及び会員生産台数 9) 最近の官公庁情報 10) その他報告事項
	講演会(東京)	国土交通省から講師を招き「最新の自動車技術行政について」をテーマに講演会実施 ▶P.3
19日	特装部会／脱着コンテナ車合同分科会	①特装技術委員会の結果共有 ②脱着コンテナ車の解説本の改訂検討
	資材部会／第1分科会 (東京)	気象科学館、本所防災館の見学会を実施 ▶P.10
22日	中央技術委員会／ トラック・パン車点検整備推進分科会	トラック、パン車の安全点検制度普及の課題についての意見交換と今後の進め方確認
23日	トレーラ部会／サービス委員会	①都道府県トラック協会研修会実施報告 ②トレーラ部会工場見学の計画展開
24日	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.48「大型危険物タンクローリー編」の検討 ②架装物の安全点検制度のステッカー使用枚数調査
	トレーラ部会／製品安全委員会	①自動車整備標準作業点数表への登録進捗確認 ②自動車点検分解整備記録簿の実効性調査進捗確認
25日	バス部会／ワンマン機器小委員会	①JABIA規格2件の改正案の審議 ②バックカメラ視認性評価結果の整理
26日	労政合同分科会	①「春季労使交渉」について会員会社による情報交換の実施 ②労働時間、採用計画等各種調査の情報交換の実施 ▶P.8

8月		
1日	特種部会／工場見学会(静岡)	山田車体工業(株)、(株)浜名ワークスの工場見学会を実施 ▶P.9
	トレーラ部会／技術委員会	①共通構造部(多仕事自動車)型式指定制度について今後の進め方検討 ②R177の決定を受けた対応について検討
1日 ～2日	現地現物による技能系社員研修会(静岡)	中小会員支援策の一環として現地現物による技能系社員研修会を実施 ▶P.7

20日 ~24日	資材部会	海外視察(中国・ベトナム自動車関連施設)を実施	▶P.10
21日	中央技術委員会／スワップボディコンテナの構造基準のJABIA規格化WG	①JABIA規格の見直し ②ピクトグラムの決定	
	安全衛生活動WG(群馬)	㈱ケイエムオーを安全衛生の視点で工場見学	▶P.8
23日	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュース№48「大型危険物タンクローリ編」の最終合意 ②メンテナンスニュース№49「ツールボックス/STC編」の準備	
26日	特装部会／ミキサ車分科会	①特装技術委員会の結果共有 ②トラックミキサ・アジテータドラムの型式登録規定の改訂検討	
28日	中央技術委員会／ISO26262WG	ISO26262商用車改定版を受け「ISO26262改訂を受けた架装物の対応」発行に向け、内容等の確認	
29日	中央技術委員会／突入防止装置技術委員会	①UN-R58-03対応非認証突入防止装置に関する会員向け参考資料検討 ②UN-R58-03対応後の突入防止装置の課題等検討	
30日	第2回広報委員会	①2019年度事業計画進捗確認・論議 ②車体NEWS秋号の校正と冬号の企画の論議	
	小型部会／技術委員会(静岡)	自動車技術会主催の学生フォーミュラ日本大会2019視察	▶P.10

会員情報

■代表者変更	正会員	岩戸工業(株)	代表取締役社長	井納 毅
		兼松エンジニアリング(株)	代表取締役社長	山本 琴一
		KYB(株)	代表取締役社長執行役員	大野 雅生
		三久自動車工業(株)	代表取締役社長	青木 茂
		ジェイ・バス(株)	代表取締役社長	山中 明人
		(株)ソーシン	代表取締役社長	田中 一春
		(株)ティービーエム	代表取締役	松枝 伸行
		日本機械工業(株)	代表取締役社長	古田 良夫
		日立キャピタルオートリース(株)	代表取締役社長	池田 左千夫
		(株)瑞穂	代表取締役社長	吉川 弘國
		準会員		
		関西ペイント(株)	代表取締役社長	毛利 訓士
		自動車車体興業(株)	代表取締役社長	小松 清勝
		(株)タチエス	代表取締役社長	山本 雄一郎
		日本特殊塗料(株)	代表取締役社長	田谷 純
		日本ボデーパーツ工業(株)	代表取締役社長	小林 和弘
■本社移転	正会員	(株)ベルリング	〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3 TEL 03-6206-0387	
	準会員	(株)龍村美術織物	〒615-0022 京都府京都市右京区西院平町25 TEL 075-325-5570	



黒須 裕幸 代表取締役



DATA

- 本社 〒334-0076 埼玉県
川口市本連4-7-38
TEL 048-282-9171
FAX 048-282-9183
- 資本金 3,100万円
- 従業員 54名
- 事業所規模(本社工場)
敷地 約16,000㎡
建坪 約5,000㎡
- 車体工業会加入
2012年(特種部会)

株式会社 シスコム



(株)シスコム

若いスタッフの力を結集し、
着実に仕事をこなしていく。

いすゞ首都圏自動車(株)のサービス拠点として、埼玉県川口市に建設された「いすゞテクノパーク川口」。巨大な建物の中で、繁忙期には月間800台の架装をこなしている(株)シスコムには若い力が溢れていた。

取材／車体工業会業務部長 小森 啓行

● 特徴・沿革

(株)シスコムは、いすゞ自動車首都圏(株)のグループ企業であり、1980年に東鈴車体(株)として設立。いすゞ自動車グループの業務センターの移転や再編成に伴い、1992年に社名を(株)エステックに変更し、現在のいすゞテクノパーク川口に移転した。1999年にはグループ企業の(株)シスコム(旧東京陸送サービス(株))と合併、諸手続きの便宜上、社名は(株)シスコムを残し、新会社を設立。その後もグループ企業2社と合併し、現在は社内・外注含め、総勢60名の体制となっている。

いすゞ自動車(株)が製造する平ボデー、バン、ダンプ車等の様々な車体の二次架装及び、自社開発の軽量アルミ製アオリを装着した資源回収車やガスボンベ運搬車を製造している。

工場所在地であるいすゞテクノパーク川口は、東京・千葉・神奈川を中心に関東一円を担う、いすゞ自動

車首都圏(株)のサービス拠点となっており、地上7階建て、屋上を含めると収容能力最大500台を誇る巨大な建築物だ。大型車両が構内のスロープを使って移動できるほか、4トラックが丸ごと入るエレベーターも備えている。完成当初は多くの見学者が訪れた近代的な工場である。

関東一円の販売網を誇るいすゞ自動車首都圏(株)の出荷台数は、多い月で800台を超え、単純計算で1日に30台の架装をこなさなくてはならない。若さとチームワークで日々の業務をこなしながら、生産性の更なる向上を目指している。



4トラックが丸ごと入る大型エレベーター

製品

— 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

いすゞ自動車首都圏(株)のグループ会社として、いすゞの車体の二次架装を主業務としています。繁忙期には月間800台を超える様々な架装をこなすことが求められます。

二次架装の仕様は1台1台異なり、車の大きさも形状も違います。ユーザーのニーズを満たし、いすゞ自動車のリピート顧客へと繋げるためにも、お客様に満足いただけるよう確実な架装を心掛けています。工程管理をはじめとした、時間の短縮が常に課題となっています。



広い構内にズラリと並び車体



屋上にも数多くの車両

— どのような製品を手掛けているのでしょうか？

トラックやバンの二次架装の他に、オリジナル設計の軽くて丈夫なアルミ製アオリを搭載した資源回収車を製造しています。日々の業務の合間の中で、時間をかけて開発した製品で、アルミ蝶番部分は構造特許を取得しています。



構造特許を取得している軽量アルミアオリはオリジナル設計の製品



大型車は1Fの駐車場に並び

— 御社の経営方針は？

数多くの仕事をいただいておりますが、1台1台、受けた仕事は着実にやり遂げることです。お客様のニーズに確実に応え、満足を提供することにより、リピート顧客へ繋げていくことが使命です。

多くの車両が出入りする立体的な工場ですので、従業員全員の安全確保にも十二分に注意しています。



ダンプ車や平ボデー等、様々な車体の架装を手掛けている



ステッカーシール類は専門部署にて内製

人

— 御社の特徴は？

大勢の若いスタッフが所属していることです。若い人たちの意見を吸い上げるために、管理職は足しげく現場を回って、直接意見を聞くようにして、風通しの良い明るい会社になるように心掛けています。



10名の塗装専門スタッフで対応

従業員の紹介で中途採用するケースも多く、自然と若いスタッフが集まりました。社員からの要望で、昨年フットサルチームを立ち上げて、健保組合の大会にも出場しています。

— 次世代の教育について

数多くの仕事がありますので、毎日の現場仕事が研修となっています。マンツーマンで現場の勘所を肌身で感じてもらい、作業方法や課題に対して、ただ教えるだけでなく、一人ひとりが、自分ならどうするかを考えて作業するように指導しています。



有志で活動するフットサルチーム

フォークリフトやクレーン、玉掛け、大型自動車免許等の各種資格の取得も会社で支援しています。

若い従業員の好奇心は旺盛なので、他社の仕事の方法を勉強できる車体工業会主催の工場見学会には積極的に参加し、レベルアップに役立っています。

NET WORK 会員会社紹介

トラック向けEVAシートの先発メーカー

新和ゴム工業(株)

新和ゴム工業(株)は、バス・トラック車体のゴム・スポンジ製品等を製造・販売、トラックのマッドガード(泥除け)に使われるEVA(エチレンビニール樹脂)を主力商品としている。創業は1959年で、本年創業60周年を迎えた。

10年におよぶ苦しい経営

1963年に、それまで経営を一任されていた先代社長の出川久雄氏が創業者より事業を譲り受けた。現社長の出



荷台等に使われるゴム製品群。
緩衝や防振等、幅広く使われている

川紀久氏は、1966年に先代の久雄氏が脳梗塞で突然倒れてしまったため、大学に通いながら母とともに経営を支え、1969年に大学を卒業と同時に社長に就任。それまで工学とは縁がなかった出川社長は工場長の後をついて現場仕事を学んでいった。下請けの製造が追いつかない時には、終業後に下請け工場に出向き、現場でゴム製造作業を深夜まで手伝って、経営を支えてきた。

オイルショックの影響で社会の景気が悪かった1976年に、取引先の倒産で3,000万円の不渡りを受けてしまう。当時、月の売上が1,000万円の新和ゴム工業(株)にとって、連鎖倒産も考えられる状況であった。出川社長は直近3年間の決算書を携え、仕入先各社へ出向き、経営状況を丁寧に説明し、取引継続の依頼をして回った。信頼関係を培ってきた信用金庫から迅速な制度融資を受けることもでき、倒産の危機を免れることができた。

その後もオイルショックの影響で10年以上苦しい経営が続いた。社長就任以来、初めての黒字を経験できたのは1985年であったという。



出川 紀久
取締役社長

出川 美英
取締役副社長

押出しスポンジ“ネオロン”

時代が平ボデーからアルミバンやウイング車へと移り変わり、車体に使われるゴム・スポンジ部品の使用率が10倍に急上昇。長年培ってきた押出し成型技術によって、使用する用途・部位に応じた製品作りで、ボデーメーカーの多様なニーズに応えてきた。



複雑な断面を高度な技術で押し出して製造されるウェザーストリップ

押出しスポンジ“ネオロン”は、ウイング車のアオリとウイングの隙間を埋めるウェザーストリップに用いられ、ソリッドゴムの強度と高弾性をベースに、スポンジ特有の柔軟性・シール性を併せ持つ自慢の製品だ。車体に接する面に小さな突起をつける工夫で摩擦抵抗を減らし、スムーズに取り付けができる作業性も好評を博している。

主力製品EVAマッドガード

EVAシートは、高い柔軟性と弾力性、優れた熱可塑性を持つ合成樹脂で、マッドガードに最適な素材である。量産型4tトラックのマッドガードにEVAが採用さ



多くのトラックで使用されているEVAマッドガード

れることが決まった時、ボデーメーカーの強い支持で新和ゴム工業(株)がトラック向けのEVAシートの開発を受け持つこととなった。試行錯誤を経て、性能と価格面の要求を満たすEVAシートの開発に成功し、同社は、今もトラック向けEVAマッドガードのトップメーカーとなっている。

原材料価格の高騰

同社の最近の悩みの種は、安定していた原材料価格が、ここ1年ほどで高騰してきたことである。同社は湾岸戦争時の原材料高でも、製品の値上げをせず、売上が上がっても利益をマイナスの状況で対応してきた。昨今の不穏な中東情勢もあり、原材料価格の動向には常に気を配り続けている。

新和ゴム工業(株) 取締役社長 出川 紀久
トラックボデーパーツを見つめ続けて60年。技術の先へ。研究開発を追い求め続けます。

【本社】〒144-0031 東京都大田区東蒲田2-16-10

Tel: 03-3736-1061 <http://www2.goL.com/users/ip0505170687/>



私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

仕上がりの品質と施工スピードにこだわる

(株)ゆう

(株)ゆうは、東京都世田谷区に本社を構え、マーキングフィルムを駆使した交通広告、屋内外広告の制作を行う会社である。1985年7月、二子玉川にて創業した(株)クリエイティブ和光を前身とし、1989年、現在地へ移転するとともに(株)ゆうに社名変更した。

社名の由来は「for You」。お客様のためにがんばる企業として、打ち合わせから現地調査・デザイン・制作・施工・アフターケアまで、一貫して自社でおこなう「自社トータルシステム」を採用し、高品質な製品を短納期で提供している。

マーキングフィルムのパイオニア

創業当初から、資材メーカーである3M(現スリーエム ジャパン(株))と協力し、車両にマーキングフィルムを貼る技術を磨き上げ、全国の工場と施工会社へ技術指導を行ってきた。同社で技術を学んだ職人たちの独立を応援し、全国に協力工場、施工協力会社のネットワークを広げている。

マーキングフィルムはきれいに貼れるのが当たり前と思われがちであるが、車種ごとに形状が異なり、多くの三次曲面で構成される車両に、平面のシートを「美しく」「速く」貼る技を身に付けるには5年以上の経験が必要である。

屋外看板等も手がけてはいるが、バブル期のCI*ブームで、車両に会社ロゴマークを表記する企業が増加し、高い技術力を持つ(株)ゆうに自然と車両関係の依頼が増え、車両マーキングに特化していった。※CI: Corporate Identity

2000年には東京都でラッピングバスが解禁し、一気に需要が増える。当時はまだ巨大なバスにマーキングフィルムを貼ることができる技術を持つ会社が少なく、全国で指導してきた腕の良い職人を集めて、(株)ゆうが都内路線バスのラッピングの8割ほどを手掛けた。



浅田 光生
専務取締役

西村 翔士
代表取締役

スピードと品質

短期間で施工が完了することもマーキングの特長である。

(株)ゆうでは、他の業者が2日かかっていた仕事を1日でこなすことができる。

10tを超える大きなコルゲート(波板)ウイング車になると、腕の良い職人を多く集めなければならない。コルゲート板に貼るフィルムは縦方向に長めに出力されるため、短い作業時間で絵柄を合わせるには、フィルムの引っ張り方や曲げ方を熟知した職人技と、スムーズな進捗管理も大切だ。限られた時間の中で外せるパーツは可能な限り外して施工を行うことで、仕上がりはさらに美しくなる。

ただ貼るだけではなく、企画力・提案力とともに、優れた技術力・施工能力を備えていることが同社の強みである。

人々の注目

を浴びる大手飲料メーカーの配送用車両等に求められる「品質

重視」のマーキング制

作は広告代理店からも注

目を集め、直接指名で依頼を受けている。

需要の減少と人材の確保

クオリティにこだわった職人のネットワークを全国に持っているのが(株)ゆうの強みである。最近は共同配送が増加し、社名やロゴを表記しない車両も多く、全体の需要は減少傾向にあるのが業界の現状といえる。

このような厳しい環境の中で、マーキングフィルムのパイオニアとして、培ってきた優れた技術力・施工能力を維持し、これからも顧客に満足を提供し続けていくための企業努力が続けられていく。



デモカーのボンネットやバンパーは全面マーキングフィルム加工されている



大型車の全面マーキングフィルム施工のイメージ(模型)

(株)ゆう 代表取締役 西村 翔士

『お客様と共に栄える～for YOU～』・You Qualityの徹底・Originalityの追求・Useful Companyであり続けること

【本社】〒154-0014 東京都世田谷区新町2-2-9

Tel: 03-3706-6921 <https://youcorp.co.jp/>



自動車産業は100年に1度の大変革を迎えている。技術革新によりこれまでは実現が難しかったことが成し遂げられるようになり、社会生活も根本から変わろうとしている。今回は、最近見聞きすることが多くなってきた、CASEとMaaSについて報告する。

Q1 そもそも「CASE、MaaS」とはということ？

●CASEとは、技術革新により自動車産業の構造が

変革していく4つの方向を示している。

- ・Connectivity(Connected)：ツナガル(接続性)
- ・Autonomous：自動化(自動運転)
- ・Shared & Service：利活用・共有
- ・Electric：電動化

またCASEは、2016年のパリモーターショーで独ダイムラーのディーター・ツェツェCEOが発表した中長期戦略の中で提唱した造語である。これは、同社が自動車を製造・販売する会社から、クルマを移動するための手段としてサービスを提供する会社になる、ということの意味したものである。

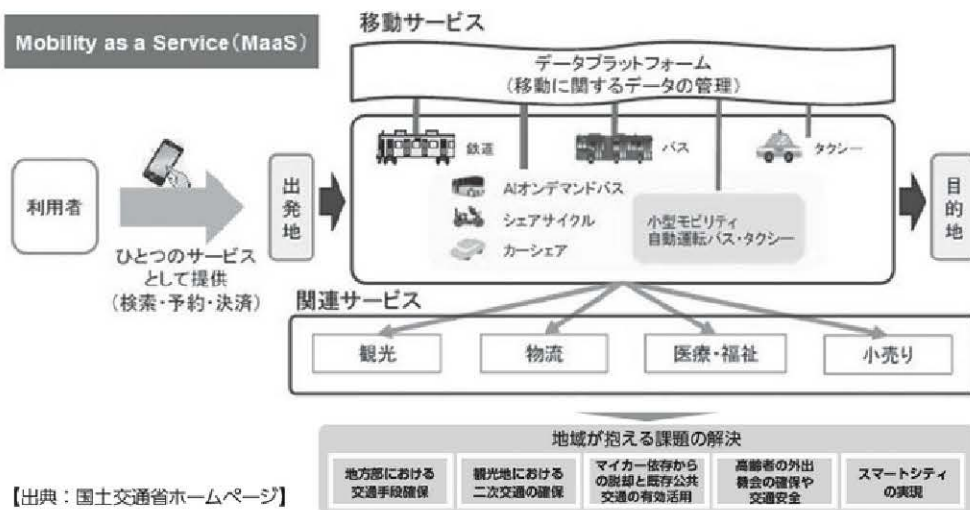


【出典：経済産業省ホームページ】

●MaaSとは、「Mobility as a Service」の略で、直訳すると「サービスとしてのモビリティ」、

すなわち移動のサービス化を意味する。したがって、CASEの「S」に相当するものと考えることができる。

- ▶ ITS(Intelligent Transport Systems/高度道路交通システム)を活用した新たな交通政策を進めるフィンランド政府の取組みの中で2014年ごろに生まれた概念。
- ▶ 一般的には、あらゆる交通手段を統合し、ワンストップで予約・決済・利用できるようにする。
- ▶ それぞれが独立している自動車やバス、電車、飛行機などの各交通主体を、移動するためのサービス・コンテンツとして取りまとめ、統一されたプラットフォームに乗せることで、利用者に効率的な移動の選択肢を与え、予約や決済などを統一することで利便性をもたらす統合型移動サービス。
- ・ MaaS先進国のフィンランドでは、MaaSグローバル社のアプリ「Whim(ウィム)」が2017年11月から首都ヘルシンキでサービスを提供し、2018年10月までに約180万件が利用。
- ・ Whimには公共交通機関のほか、タクシー、自転車や自動車のシェアリングサービスなどさまざまな企業が参加。
- ・ アプリで行き先を検索して経路を選んだら、複数の移動手段の予約や支払いをまとめて済ませることが可能。
- ・ 月額49ユーロまたは499ユーロの乗り放題プランあり。



【出典：国土交通省ホームページ】

・ タクシーが来ないから電車で替えるなど、移動中に問題が生じたらWhimのカスタマーセンターが対応。

▶ 日本版 MaaS では移動以外の関連サービスの予約や決済の組み合わせといった多様なニーズにも対応。

CASEがもたらすものは？

CASEがもたらすクルマの新たな社会的価値はシナジーを追求し、クルマと社会の融合を深化させていくことで、クルマを起点とした豊かな社会生活の実現をもたらす。



【出典：経済産業省ホームページ】

Q3 MaaSがもたらすものは？

2014年フィンランドでは、ヘルシンキ市において域内の自家用車を2025年までにゼロにするロードマップが示され、様々な公共交通を一括で検索・予約・決済できるアプリ「Whim」がスタートした。これによる効果は、右のように報告されており、社会生活の改善に繋がっている。

- ・公共交通機関の利用シェアの増加(ヘルシンキ市でのWhimユーザー:48%→74%)
- ・都市部における渋滞の削減や環境負荷の低減
- ・公共交通機関の運行効率化、生産性向上
- ・人流データ収集(→路線の再編)

【出典：国土交通省ホームページ】

Q4 日本版MaaSへの取組みは？

日本は、都市と地方、高齢者・障がい者等を含む全ての地域、全ての人が新たなモビリティサービスを利用できる仕組みとして、「日本版MaaS」の実現に向け取り組んでいる。

国土交通省は、MaaS 等の新たなモビリティサービスの推進を支援する「新モビリティサービス推進事業」について、事業の熟度が高く、全国の牽引役となる先駆的な取り組みを行う「先行モデル事業」として、今年度19事業を選定した。7月31日にはこれらの事業主体から提出された申請を踏まえ、準備が整った15事業を対象に交付決定を行った。

なお、残りの4事業についても、準備が整い次第、交付決定を行うとのこと。

＜新モビリティサービス推進事業先行モデル19事業＞

(●印は、7月31日に交付決定した15事業)



【出典：国土交通省ホームページ】

Q5 働くクルマはどうなるのか？

サービスの向上を図るため、更なる働く機能の効率化、高度化の実現が求められ、関連産業との連携強化が重要となる。

働くクルマたち

社会に欠かすことのできない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について毎回、車種を選定してその特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

第26回目は特種部会員が製造する活魚運搬車を紹介する。



第26回：活魚運搬車

1. 活魚運搬車とは

活魚運搬車とは、荷台に水槽を設置して生きた魚を泳がしながら運ぶ車両である。車両での活魚輸送は大きく分けて二通りあり、水槽が荷台に固定された活魚運搬車と、平ボデートラックなどに水槽を積み込むタイプがある。大きさは軽トラックからトレーラまで、様々なサイズがある。水槽はFRP（繊維強化プラスチック）製でボデーはアルミ材と耐腐食性の高いステンレス材でできている。活魚輸送に大切なのは水質管理で、特に溶存酸素と水温管理が重要。そのために、エアポンプやろ過装置、冷水機などの機械が取り付けられており、車両も魚に対するストレスを軽減するために、エアサスペンション仕様が主流となっている。



活魚運搬車(25t)



水槽内の活きた魚

2. 活魚運搬車の歴史

1970年の中頃に九州で活魚料理店が生まれ、全国各地へ広がっていった。1980年に入ると、テレビや雑誌で報道され「活魚ブーム」が起こり、これと時を同じくして活魚輸送も進化した。

はじめは平ボデートラックにポリタンクやコンクリートパネルにFRPを貼った水槽と酸素瓶を積んで輸送していたが、夏場になると水温が上がるため、断熱材を使ったFRP水槽が主流となっていった。そして、活魚輸送を専門で行うクルマとして活魚輸送車が誕生。これにはもう一つ、養殖漁業の発展（鯛に始まり、ブリ、ヒラメ、カンパチ、フグ）に伴う安定供給の需要が大きく影響している。その養殖地に近い四国と九州で活魚運搬車は独自の発展を遂げていく。四国は魚をカゴに整列させて積む「カゴ積み」が主流となり、九州では魚を泳がして運ぶ「泳がせ」が主流となった。現在は消費者のニーズに応えるべく、様々な種類の魚を混載して運ぶのが主流となり、一槽ごとに水温や積み方を変えて運べるようになっている。

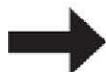


平ボデートラックに水槽を乗せた初期の活魚運搬車

四国で主流だったカゴ積み



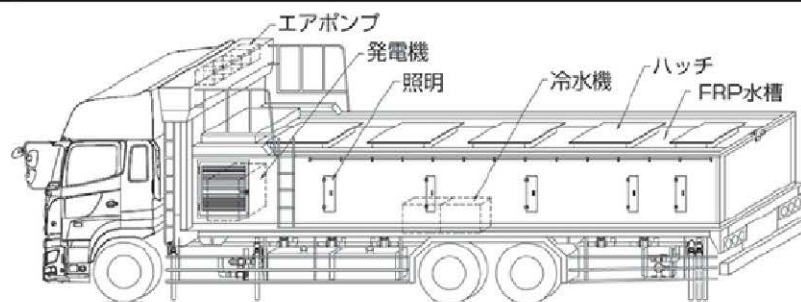
カゴの中で魚を整列させる



カゴを水槽に並べ運ぶ

3. 活魚運搬車の構造

活魚運搬車で輸送できる魚の量は、魚種や状態、季節によっても異なるが、通常水量の1割程度となる。



エアポンプ：水中の溶存酸素濃度を調節するとともに、対流を起こして隅々まで酸素を届ける。

発電機：主に冷水機の電源に使用。

照 明：照度変化による魚のストレスを軽減。

冷水機：水温調節を行う。

ハッチ：水槽内への魚の投入口。

FRP水槽：活きた魚を入れて目的地に運ぶ。

FRP水槽の製造工程

ステンレス型にゲルコート吹き付けFRPパネルを製作

製作したFRPパネルを箱状に組み立て

間口や扉、給水配管等を取り付け 冷水機等との電気配線を配索



FRPパネルの製作



パネルを箱状に組み立て



部品取付け



電気配線の設置

4. 活魚運搬車のあれこれ

新鮮な魚を料理店や食卓に運ぶために、さまざまなタイプの活魚運搬車が活躍している。

移動水族館は、子供たちに大人気。



軽トラック

主に飲食店配送に使用



大型車

主に漁場から消費地への輸送に使用



トレーラ

活魚船に代わる大量輸送を可能とした



クレーン付き

船舶から直接積み込みを可能とした



パワーゲート付き

積み込み及び荷下ろし作業の軽減に有効



移動水族館

学校や病院などの施設を回り、水族館を体感

5. 生産実績

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
台数	20	17	9	13	15	17	19	36	33	34

Member's Essay COFFEE BREAK

ギターは魔物

岐阜車体工業株 総務部 ^{かわだ てつし} 河田 哲示

中学時代にFのコードで挫折したギターでしたが、35歳の時に一念発起して教室に通い始めました。課題をクリアする達成感と共に、ギターの持つ深い魅力に取り憑かれてしまいました。ギターの音色はもちろんのこと、材質、構造、仕上げ、装飾などの手工芸品的要素にも魅せられてどんどん本数が増えていきました。

ジャンルは主にフォーク、ポップスの弾き語りを主体として、教室の発表会を手始めに、フォーク喫茶のオープンマイク、ライブハウス、会社のフェスティバル、野外



会社フェスティバルにて

イベントでの演奏など活動の場も拡がり、同じ趣味を持つ仲間との交流、ユニットの結成などにより演奏の幅も拡がりました。今は秋に開催予定の大ホールでの市主催のイベントに向けて練習中です。

ギターは公園でも車の中でも手軽に練習でき、パーベキューなどを盛り上げる小道具や無料のカラオケにもなります。皆さんも是非一度ギターを手にしてみませんか。

最近では、ギターを構成する木材に興味を沸き、古い家具探し、巨樹・巨木巡り、森林組合への定期訪問、会社が管理している森林(美濃白川岐阜車体の森)の整備活動など、ギターに触れたことによりどんどん世界が広がっています。



加子母の大杉(中津川市)

再びギターを始めてから20数年経ちますが「ギターは魔物」、今でもギターは増え続けています。



美濃白川岐阜車体の森にて

No Armwrestling NO LIFE ～趣味の領域を超え～

天龍工業株 シート事業部製造部 ^{やまだ まさひろ} 山田 正博

私が本気で挑戦しているもの！それは、アームレスリングです!!

少年時代から続けてきた野球を40歳で辞めた時に、共に趣味として続けてきたウエイ



チーム練習(左が筆者)

トトレーニングで身につけた筋力を、何かで試せないか!? ということで、筋力には自信があったので、当時、地元の富山県にはない、石川県のアームレスリング道場の門を叩きました。

入門当初は、自信があったはずの腕力は、全く歯がたたず、恥ずかしくて悔しい思いをしたことが、闘志に火がつき、そこからどっぷりハマってしまい、今日に至ります。

アームレスリングは様々な技と腕力を繰り出し、腕一本だけで戦い、男女問わず誰でも出来る生涯スポーツであり、下半身に障害がある選手でも実際に車椅子選手の大会も開催されています。

また、世界共通の厳格なルールのもとに行われる腕相撲に似た競技として『卓上の格闘技』とも呼ばれ、国体デモンストレーション競技や、世界大会も頻繁に開催されています。

左右の腕と体重別、競技歴に分けて試合を行い、ほとんどが一瞬で勝敗が決まります。専用台にレフェリーが2名、開始合図が始まる前からの手と手の握り合いの攻防から、レフェリーの合図「Don't Move」



北陸合同練習(左が筆者)

(動くな!)...[GO!!]のスタートで一気に腕同士がぶつかり合う。スタートの瞬発力、技、全身をつかった筋力が衝突する瞬間、自分より身体が大きく、力が強い相手に技で上回る瞬間が一番の魅力です。

現在は趣味の領域を超えて、富山県内のアームレスリング普及に向け、連盟富山支部の発足と20名が所属するアームレスリングクラブ「富山(とやま)腕(わん)」を結成し、全日本大会入賞!! という高い目標をもって日々鍛錬、トレーニングに励んでいます。腕一本あれば、子供からお年寄りまで誰でも、手軽に気軽に、始められるアームレスリング! 是非、皆さんも一緒にやってみませんか?

富山県アームレスリング連盟 富山支部

最後に主な戦績をご紹介します。

開催時期	出場大会	階級	成績
2016年11月	第13回石川県アームレスリング選手権大会	70kg級	レフトハンド 準優勝
2017年4月	オールジャパンアームレスリング連盟 第11回西日本アームレスリング選手権大会	65kg級	ライトハンド 3位
2017年10月	第14回石川県アームレスリング選手権大会	75kg級	レフトハンド 3位 ライトハンド 3位
2018年3月	長岡アームレスリング アオーレ杯	上級クラス 75kg級	ライトハンド 3位
2018年4月	第31回オール新潟アームレスリング選手権大会	70kg級	ライトハンド 優勝
2018年9月	第15回石川県アームレスリング選手権大会	75kg級	レフトハンド 準優勝 ライトハンド 3位



2017年4月第11回西日本アームレスリング選手権大会で3位入賞(右から3番目)

マラソン10年生

株ベルリン 広報 やまだ しんや 山田 伸哉

陸上競技の経験など全くない自分が、単にダイエット目的でジョギングを始めたのが10年ほど前。週末、家の周りを適当に走って体重計に乗る生活。走り始めて2か月、思いつきでGPS付きの時計を買ったのが運の尽き。ランニングにハマってしまいました。PCに次々溜まる記録、ランデータ! ダイエットじゃな



第30回守谷ハーフマラソン

く、スポーツとしての目標達成意欲がむくむくと芽生えちゃいました。「毎月最低100km走る!」とか「真夏に1km5分のイーブンペースで10kmチャレンジ!」とか…。完全にマゾヒスト。

走り始めて5か月後には、10kmロードレースやハーフマラソンに ちばアクアラインマラソン エントリー。レースとして長い距離を走る面白さ、達成感に目覚めてしまいました。その後すぐに初フルマラソン。震災後間もない「いわき」で開催された復興支援マラソンに気概を感じ出走! タイムは5時間以上かかりましたが無事完走。走りきれた自分自身の満足感はもちろん、沿道の温かい声援が本当に嬉しくて…。フルマラソンの楽しさ、奥深さを知りました。そして、走れば走るほど、タイムへのこだわりも加速します。「もっと練習して、もっと頑張れば、もっと早く走れるはずだ!」マゾヒストの極みです。

翌年からは毎月100kmのランニングを継続。全国各地のレースにエントリーして、年間、フル・ハーフ・10km合わせて7、8レースを走り続けています。ありがたいことに東京マラソンも過去2度当選。いずれも楽しく完走しました。また、2020年も当選し、走るようになりました。

レーススタイルは、キャラクター仮装。(よくわからないまま)沿道で応援してくれてる「幼児」に楽しんでもらえるように、幼児に人気のあるキャラのコスプレで走っ



東京マラソン2014

ています。これまですべてのレースで完走できたのは、このちびっこ達の声援があるからこそ。力をくれます。

申し遅れましたが、私、来年は還暦。3年前のサブ4(4時間切り)以来、タイムは伸び悩み、最近是自己ベストの挑戦ではなく、老化との戦い。現状維持が精一杯。しかし、まだまだやれるはず! マゾヒストの限界へ挑戦は続きます! ご声援を(笑)

<訂正とお詫び>

2019夏号P.45において、執筆者のお名前に誤りがありましたことを訂正してお詫び申し上げます。
(誤) 藤崎 茂 (正) 森崎 茂

日産車体(株)
開発総務室
いとう ちか
伊藤 千華さん



(株)丸山車体製作所
部品課
おがわ ゆみ
小川 由美さん



考えをぶつけ合いながら最適解を導く過程に楽しさを感じます。

色々なメーカーの車を見ることができるのは楽しいです。

Q1 どんなお仕事ですか？

日産車体(株)は、日産グループの中で小型商用車、フレーム車、マイクロバスなどの開発から生産までのモノづくりの機能を持った完成車メーカーです。その中で私は、開発部門の総務室に所属し、社内イベントの企画運営や部門のパフォーマンスアップを目指した取組みの推進を担当しています。

Q2 仕事で楽しいときは

仕事を進める上で結果が自分の予測通りになった時と、課題解決のプロセスの中でメンバー同士の考えをぶつけ合いながら最適解を導く過程に楽しさを感じます。また、導いた方策を実行してしばらくしてから「ありがとう」「あれ良かったよ」などの言葉をいただけた時には、更に喜びを感じます。

Q3 仕事でつらいこと

データ整理や分析業務など、自分の担当する作業でミスがあった時に、周りの部署の方に迷惑をかけてしまうことです。ミスをした時には、なぜ起きたのかを振り返り、再発防止策を考え、ミスを繰り返さないように心掛けています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

担当業務とは違う仕事ですが、東京モーターショーでの受付員や車両紹介VTRへの参加は印象に残っています。

受付員の経験では、人の印象が与える影響力の大きさや人の話を聴く姿勢の大切さ、車両紹介VTRの参加では魅せる技の奥深さを実感しました。

Q5 御社のPRをしてください！

日産車体(株)は、2019年4月に設立70周年を迎えることができました。今後も、小型商用車とフレーム車、マイクロバスを中心に、高級SUVや幼児車・高規格救急車パラメディックなど、お客さまに魅力ある、質の高いクルマとサービスをタイムリーにお届けできるよう、誠心誠意努めてまいります。

Q1 どんなお仕事ですか？

大型トラックやトレーラの部品発注、部品販売をしています。営業担当者と打ち合わせをしながら見積もりや部品の発注、引き取り、販売した部品の配達などを主に担当しています。特に、部品注文時の発注数や漏れが無いように十分注意しています。

Q2 仕事で楽しいときは

大きな修理でも小さな修理でも、自分が担当した部品で車が次々と完成されていくのを見るとやりがいを感じます。また、色々なメーカーの車を見ることができるのは楽しいですし、分からなかったことが段々理解できてきて自ら仕事ができるようになることはうれしいです。

Q3 仕事でつらいこと

数多くの部品を発注・販売しているので、一つひとつの部品名称を覚えること、それぞれの販売先へ配達する道順を覚えることに大変苦労しました。入社して1年半が経過しますが、今も日々勉強中です。また、大型トラックの部品は一つひとつが大きくとても重たいので、運搬には苦労しています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

優しい先輩や現場作業者が、部品名称や、車のどこに使われている部品かを丁寧に教えてくださったことです。そのお陰で、自分1人ではできなかった発注が、今では1人でできるようになりました。

Q5 御社のPRをしてください！

(株)丸山車体製作所は車の総合病院として、大型トラックのボデー架装から小型・軽自動車の車体修理・整備に至るまで車のトータルメンテナンスを行っています。車に関することはすべてお任せください！お客様に安心して車に乗っていただけるように頑張っています。

2019年1～6月 会員生産状況概要

① 合計

- ・ 1月～6月の累計台数は前年比7.9%増と、2年ぶりの前年超え
- ・ 乗用・小型商用・軽・シャシメーカー標準トラックの委託生産車が前年超えとなったため

② 非量産車

- ・ 1月～6月の累計台数は前年比0.2%減と2年連続の前年割れ
- ・ 特装車、トラック、トレーラは前年超えであったが、特種車、バン、大中型バスが前年割れとなったため

③ 特装車

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比14%増と2年ぶりの前年超え
- ・ 輸送系は同20.0%増、作業系は同14.7%増、輸出向けは同29.7%減

④ 特種車

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比30%減と2年ぶりの前年割れ
- ・ 緊急用は同58.4%減、車いす移動車は同18.7%減

⑤ 平ボデートラック(除シャシメーカー標準トラック)

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比5.7%増と3年連続の前年超え
- ・ 大型は同9.0%増、中型は同11.5%増、小型・軽は同2.6%減

⑥ バン

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比6.7%減と2年ぶりの前年割れ
- ・ バン(除く冷凍・保冷車)は同6.4%減、冷凍・保冷車は同7.4%減

⑦ トレーラ

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比11%増と6年連続の前年超え
- ・ 車種別では、コンテナが同22.8%増、平床・低床が同7.2%増、バンが同4.3%増、その他が同13.8%増

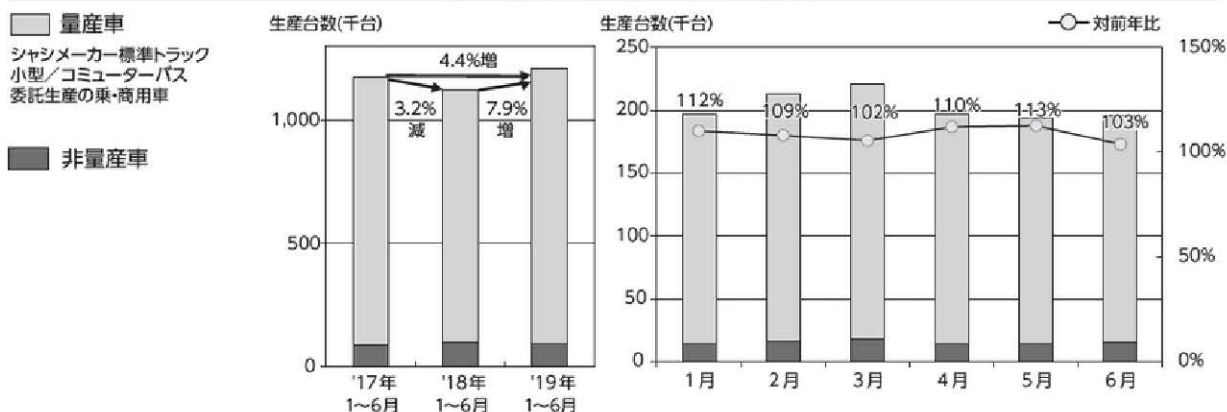
⑧ 大・中型バス

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比0.2%減と2年連続の前年割れ
- ・ 路線が同4.4%減、観光が同2.8%減、自家用が同37.9%増

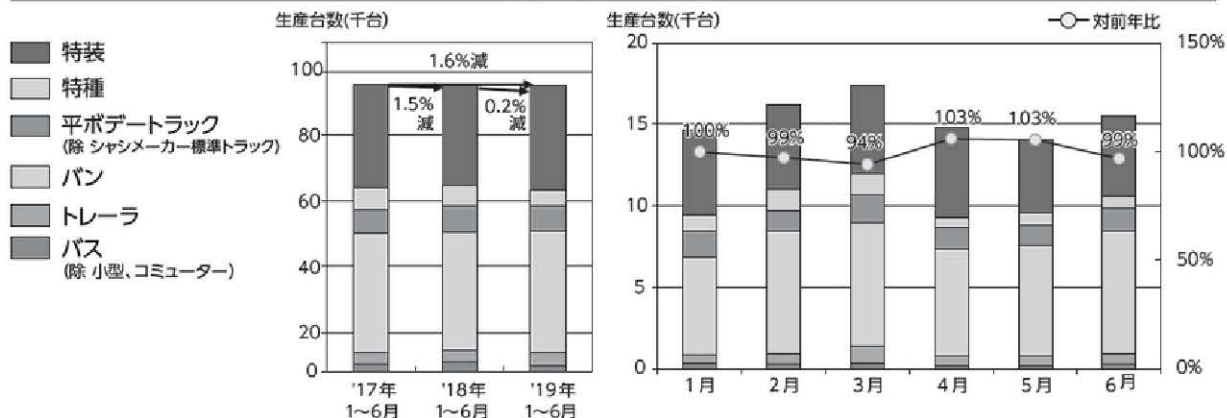
⑨ 乗用・小型商用・軽

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比9.7%増と2年ぶりの増加
- ・ 国内向けは同5.7%増、輸出向けは同13.7%増

合計 (非量産車 + 量産車)

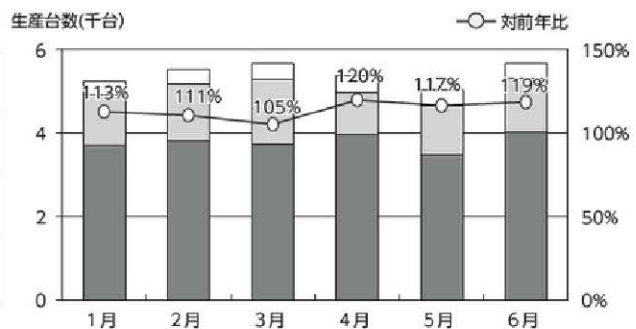
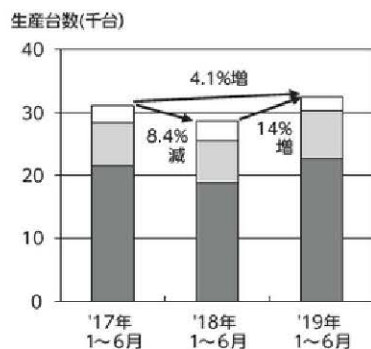


非量産車合計



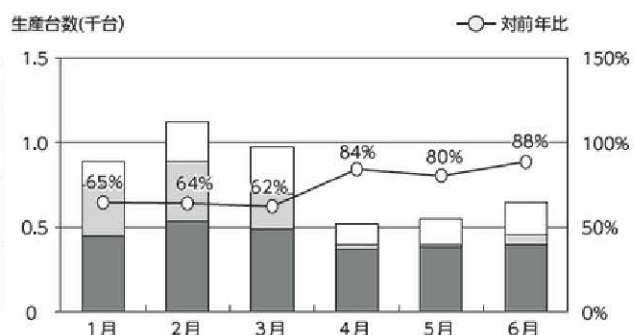
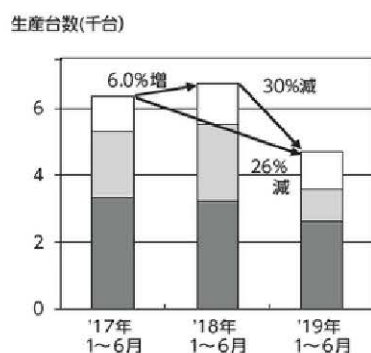
特装車

輸出
 作業系・その他
 輸送系



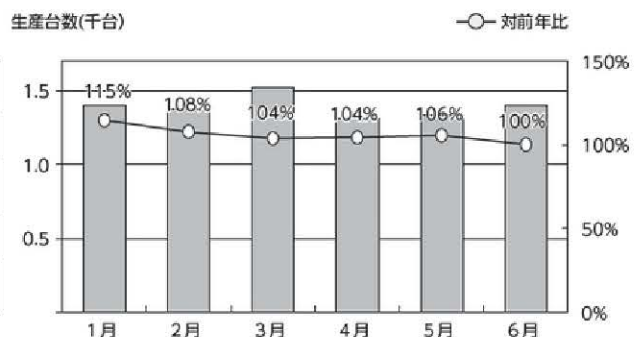
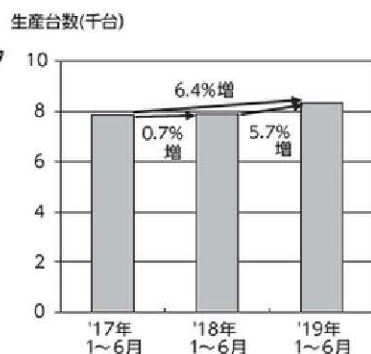
特種車

その他
 緊急用
 車いす移動車



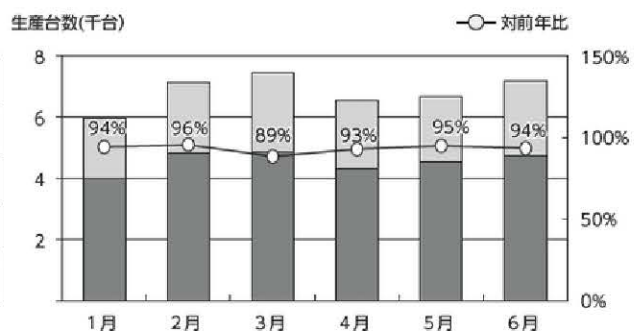
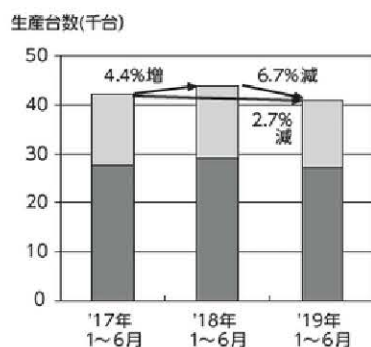
平ボデートラック

平ボデートラック
 (除 シャンメーカー
標準トラック)



バン

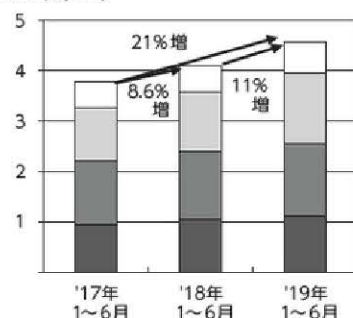
冷凍・保冷車
 バン
 (除 冷凍・保冷車)



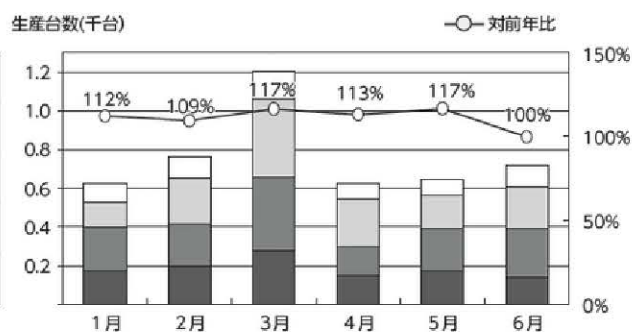
トレーラ

- その他特装系
- コンテナ
- パン
- 平床・低床

生産台数(千台)



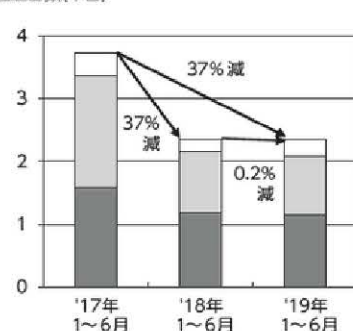
生産台数(千台)



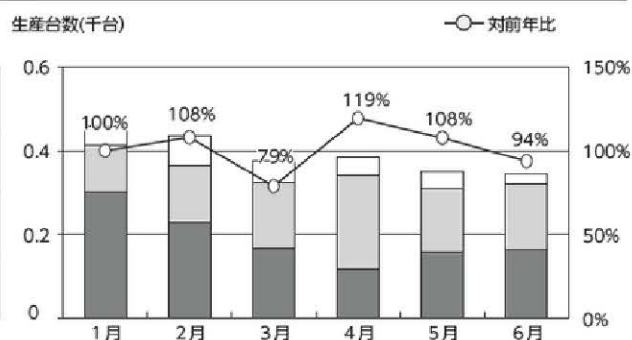
大中型バス

- 自家用
- 観光
- 路線

生産台数(千台)



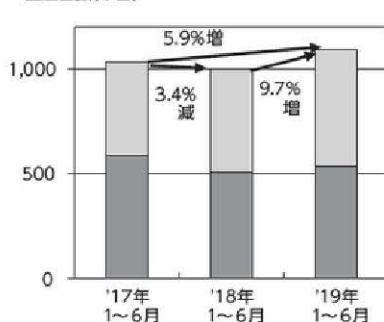
生産台数(千台)



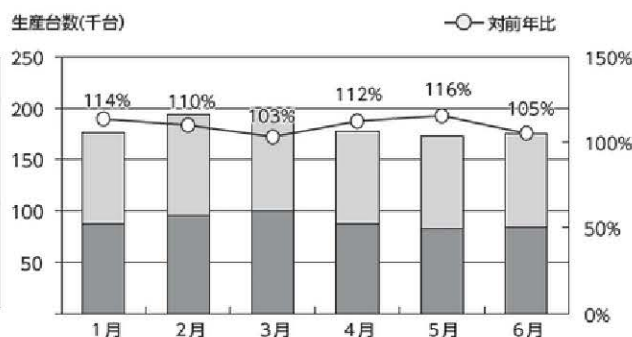
小型車 (委託生産の乗・商用車)

- 輸出
- 国内

生産台数(千台)



生産台数(千台)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>





編集後記

今年の夏は全国的に台風の影響を受け、夏休みの計画を変更された方も多かったのではないかと。気象変動が海水温の上昇を招き、日本近海で台風は衰えるどころか、勢力が拡大するようになってきており、各地にもたらされた被害の様子は目にするにいたたまれなくなる。被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げますとともに早期の復旧、復興をお祈り申し上げます。

気象変動は世界各地でも報告されており、効果的な対策が講じられていないことは残念に思う。根本的には国による認識の相違や自国の経済発展を優先する政策の推進等で地球環境への取組みが上手く進められていないことが理由のようだが、知恵を出し、生命を脅かす状況に至らないうちに取り組み、成果に繋がなければならない。

今年は東京モーターショーが開催される。コンセプトは「OPEN FUTURE」。業界を越え、オールインダストリーで来場された方々に「クルマ・バイク本来の楽しさ」と「未来のモビリティ社会」を感じていただける、東京ならではの新たなモーターショーとしていく。当工業会はブース展示を行い当工業会活動の紹介、そして会員製作の「動くくるま」ミニカーを展示し、社会生活に欠かすことのできない車両が多岐にわたることを実感してもらおうと考えている。

一人ひとりが描く未来は様々ではないが、安全、安心は全てのひとが共有できるものであり、「動くくるま」も「未来のモビリティ社会」の一翼を担っていく。

(吉田)

表紙写真について

バン部会 日本トレクス(株)製 スワップボディコンテナ

スワップボディコンテナは、キャリア(車両)とコンテナ(荷台)の着脱が可能で、輸送を効率化できます。

キャリアとコンテナが分離できるため、取りはずしたコンテナの荷降ろしや荷積をしている間に、別の荷積したコンテナを輸送することができます。運転業務と荷役業務を分離することで、ドライバーの負担や待機時間も減らせます。

また、着脱の際は特殊な昇降機器を必要とせず、キャリアのエアサスペンションを上下させることで着脱可能です。

物流業界を支えられるよう、今後も進化を続けていきます。



お知らせ

■ 講演会のご案内

◆日 時：2019年10月17日(木) 14:30~16:00

◆場 所：日本自動車会館 くるまプラザ会議室 東京都港区芝大門1-1-30

◆講演テーマ：「大型トラック・バスの市場動向と日野自動車の取組みについて(仮)」

講演者：日野自動車株式会社

◆参加費：無料

◆申込み：当会ホームページに掲載する用紙、又は会員へメール配信する用紙にてお申し込みください。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

車体NEWS

AUTUMN 2019 秋

広告掲載会社

日本トレクス株式会社 表2
スリーエム ジャパン株式会社 表3
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 表4

2019年9月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 吉田 量年

美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3MTMダイヤモンドグレードTMコンスピクイティ反射シートと3MTM反射シート680Eシリーズを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカルTMフィルム、コントロールタックTMプラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。

今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3MTMダイヤモンドグレードTM
コンスピクイティ反射シート

3MTM反射シート680Eシリーズ

スコッチカルTM フィルム

コントロールタックTMプラスフィルム

3MTM ダイヤモンドグレードTM コンスピクイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射性反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。

事故減少に対するコンスピクイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

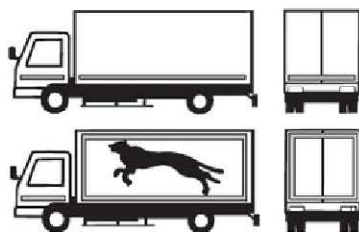
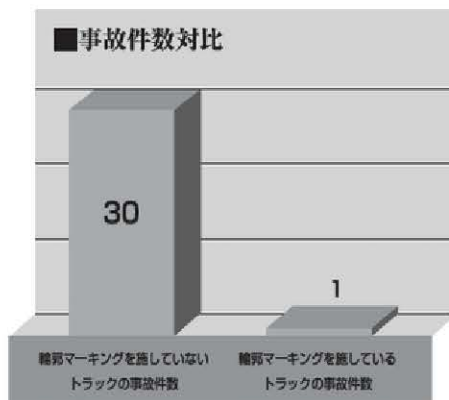
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピクイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

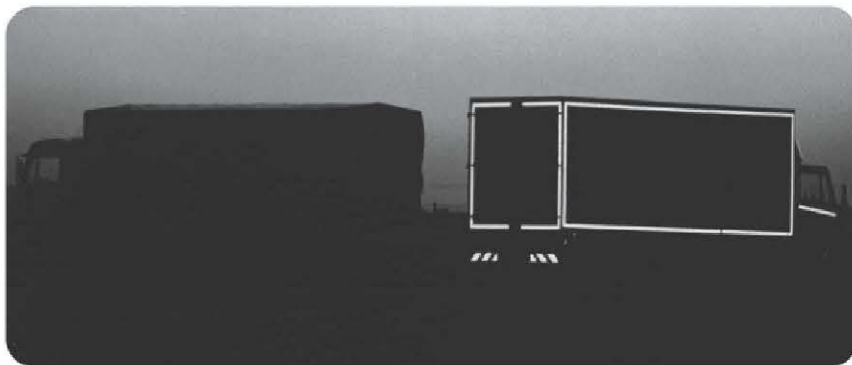
■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



※Eマークとは：国連の車両等の相互承認協定規則(CE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準」の細目を定める告示、別添105に定める技術基準に適合している製品でもあります。



スリーエム ジャパン株式会社 トランスポーテーション セーフティ事業部

本社 〒141-8684 東京都港区北品川6丁目7番29号
電話 03-6409-3388
URL <http://www.mmm.co.jp>

3M

生産物賠償責任保険

日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

随時加入申込受付中

車体工業会会員の
皆さまのための
専用の保険制度。

スケールメリットを
生かした割安な
保険料。



PL事故を
幅広く補償。

貴社のPL対策を
サポートします。

制度の趣旨

- (一社)日本自動車車体工業会の会員の皆さまのためのPL保険制度です。
- PL事故および架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
- 車体工業会のスケールメリットを活かした制度で多くの会員の皆さまにご利用いただいております。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店までお問い合わせください。

お問い合わせ先:

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 営業開発部第一課

TEL. 03-3349-3322 FAX. 03-6388-0155

取扱代理店:

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目11番11号

東日本橋Y'sビル7F 株式会社ワイズマン 東京支店

TEL. 03-5623-6455 FAX. 03-5623-6488



損害保険ジャパン日本興亜株式会社

SJNK18-09121 2018/10/22



SOMPO
ホールディングス

保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜

保険の先へ、挑む。

変化の時代にも、揺らぐことのない確かな明日をお届けしたい。その想いをカタチにするために、私たちは進化します。お客さまの「安心・安全・健康」な暮らしをひとつなぎで支えるグループへ。保険の先へ、挑む。

日本の「損保」から、世界で伍していく「SOMPO」へ。

損保ジャパン日本興亜はSOMPOホールディングスの一員です。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

営業開発部 第一課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1

Tel: 03-3349-3322 <https://www.sjnk.co.jp/>